

小林善九郎関係文書調査報告書



京丹後市教育委員会

はじめに

本書に紹介する『小林善九郎関係文書』は彼の生家である京都府天田郡下豊富村字拝師（現福知山市拝師町）の小林家に保管されてきた資料群であつて、これまで全く知られていなかつたものである。この文書類が世に出るきっかけとなつたのは、二〇一二年四～五月に佛教大学・立命館大学・京丹後市教育委員会の共催で立命館大学歴史都市防災研究センター（当時）において開催した『丹後震災85周年記念特別展 in Kyoto』であつた。すなわち、この展示会を見学された福知山市拝師在住の平野力氏が、小林家に保存されている資料の中に丹後震災関係のものが含まれているとの情報を植村に知らせて下さつたことに始まる。植村はその後数回小林家を訪問し資料調査をおこなつた。その結果、皮革製の大型旅行カバン二個の中に小林善九郎が所有していた多くの書籍や書類が保存されているのを発見した。これらは小林家第六代当主であつた小林善九郎愛用のカバンと彼が所持していた資料群である。とくに、大正期後期から昭和初期の内務省復興局および京都府峰山町に關係する資料類があり、一九二三年の関東大震災および一九二七年の丹後震災における復興期の東京市および峰山町の研究には不可欠の新資料が多数含まれていた。とりわけ、内務省復興局の内部資料および峰山町公報や町助役の事務引継書類などは貴重な新資料として注目される。

東京市および峰山町の震災復興事業に関わる未公表資料を含むこの文書類の重要な性を考慮した上、小林家の承諾をえて資料類の整理と精査のため佛教大学植村研究室に運び込んだ。その後、復興局および峰山町資料の學術的価値の高さから公開を前提とした公的永久保存が望ましいと考えるようになった。そこで、再び小林家を訪問して資料類の寄贈が望ましい旨を当主の小林善朗氏に説明したところ快く同意してくださつた。受入先として、当時市史編さんの作業を担当していた関係および小林善九郎が助役を務めていた峰山町を引き継いでいることから京丹後市が適当と判断して受入れを要請した。これに対して、京丹後市教育委員会からは受入れの内諾を得ることができた。そして、平成二五年六月六日付で小林家から京丹後市への寄贈願が受理され、手続きが完了したのである。

つぎに、資料類の整理と分類については佛教大学歴史学部原田敬一教授の指導を受けながら、佛教大学大学院修士課程日本史学専攻修了の奥田裕樹を中心同大学院生藤田裕介・谷岡直人両君の協力をえて整理作業および仮目録の作成をおこなつた。そして、これらの作業が終了した平成二五年九月一八日に全資料類と仮目録を京丹後市に引きついだ。その後は京丹後市教育委員会において再点検と整理および目録作成をおこなつた。同年一二月一四・一五両日に目録内容の再確認をおこない、最終的な目録を確定し作業を終了したのであつた。以上が本文書目録の作成に至つた経過である。

なお、福知山市拝師の小林家所蔵資料群のうち近世地方文書類については、昭和五七年八月に福知山市史編さん室が調査した目録が作成されており、文書類は同家に保管されている。しかし、今回紹介する小林善九郎に関する明治期以降の資料類は全く扱われていない。以下ではこれらを『小林善九郎関係文書』とよび、文書目録を作製し公表することにした。

『小林善九郎関係文書』目録の公表に伴い、利用者の理解を助ける目的で小林の生涯および本文書の特徴を紹介しておくことが必要と考えられる。そこで、写真で見る小林善九郎の生涯（植村担当）、小林善九郎の活動履歴（植村担当）および小林善九郎関係文書の解題（奥田担当）について執筆した。

本目録の出版を機に本文書類が広く周知され、多方面にわたる活用と近代地方史や震災復興などの研究進展に貢献することを祈念して筆をおきたい。

なお、本目録の出版に際して次の方々のご協力を得た。『小林善九郎関係文書』の保管者であり、調査および寄贈を快諾された小林三来さんと小林善朗氏に深甚の感謝を申し上げます。資料提供をいたいた日本の鬼の交流博物館長塩見行雄氏および京都府立総合資料館福島幸宏氏、小林家資料の確認に協力いたいた福知山市拝師在住の平野力氏、文書の整理と目録作成に助言と指導をいたいた佛教大学歴史学部原田敬一教授、整理作業の補助に当たってくれた佛教大学大学院生の藤田裕介・谷岡直人両君、『丹後震災85周年記念特別展 in Kyoto』開催にあたり協力と援助をいたいた立命館大学吉越昭久教授と歴史都市防災研究所の関係者、復興局に関する情報をご教示下さった小樽商科大学高野宏康氏。以上の皆様に心より感謝の意を表します。最後に、本文書の寄贈を受入れ、目録作成、印刷をおこない、一般公開できるように万端の計らいをいたいた京丹後市教育委員会に深甚の感謝を表します。

目 次

- はじめ
目次・例言
I. 写真で見る小林善九郎の生涯
II. 小林善九郎の活動履歴
III. 小林善九郎関係文書解題
IV. 小林善九郎関係文書目録

辞令 (J)	23	1
行政 (G)	18	9
復興局 (F)		
峰山 (M)		
書簡 (A)		
写真 (S)		
書籍 (B)		
地図 (T)		
覚 (O)		
そのほか (Z)		
59 56	55 55 54 47 45 36 35 31 29 24	

例 言

一. 本書は、平成二五年六月に京丹後市が寄贈を受けた小林善九郎関係文書の調査報告書である。

二. 本報告書の作成は、京丹後市史編さん事業の一環として実施した。執筆は、I. 写真で見る小林善九郎の生涯、II. 小林善九郎の活動履歴 を植村善博（佛教大学歴史学部教授、京丹後市史編さん委員会副委員長）が、III. 小林善九郎関係文書解題 を奥田裕樹（佛教大学大学院文学研究科修士課程修了）が行った。また IV. 小林善九郎関係文書目録 の作成は、奥田裕樹のほか、藤田裕介・谷岡直人（佛教大学大学院文学研究科修士課程）が行つた。

また報告書作成全般について原田敬一（佛教大学歴史学部教授）のご指導・ご協力をいただいた。

三. 本書の編集は、京丹後市教育委員会事務局文化財保護課が行つた。

四. 本書作成にあたつては、左記の機関・関係者にお世話になつた。記して感謝したい。

京都府立総合資料館 日本の鬼の交流博物館
立命館大学歴史都市防災研究センター
北原糸子 小林三来 小林善朗 塩見行雄
高野宏康 平野 力 吉越昭久 （敬称略、五十音順）

五. 本報告掲載資料は、京丹後市教育委員会にて保管している。資料の閲覧、撮影、掲載、借用等の利用については、京丹後市教育委員会事務局文化財保護課に問い合わせいただきたい。

附 錄

- 小林善九郎「東京都市計画区画整理の進行とバラツク移転状況」
『都市研究』第一卷第三号)
峰山町公報第一号

I. 写真で見る小林善九郎の生涯



写真1 小林家に保管されていた
小林善九郎の旅行カバン2個



写真4 福知山市拝師町、小林善九郎と
妻悠紀の墓碑
(戒名は慶光院積應亮善居士)



写真2 資料類の保存状態 (佛教大学)



写真3 佛教大学における点検作業



写真5 福知山歩兵第20連隊時代 明治41年2月26日、小林22歳頃（最も古い写真）
台紙：S.Yamada 福知山 山田 （S4）



写真6 大日本産業組合中央会岐阜支会時代 明治42～大正2年 夏季撮影
台紙：名古屋富澤町四丁目 奥村 （S5）



写真 7
新婚時代の小林善九郎と妻悠紀

明治 42～45 年
岐阜市瀬古写真館

台紙 : Photograph ARTISTIC 瀬古
(S13)

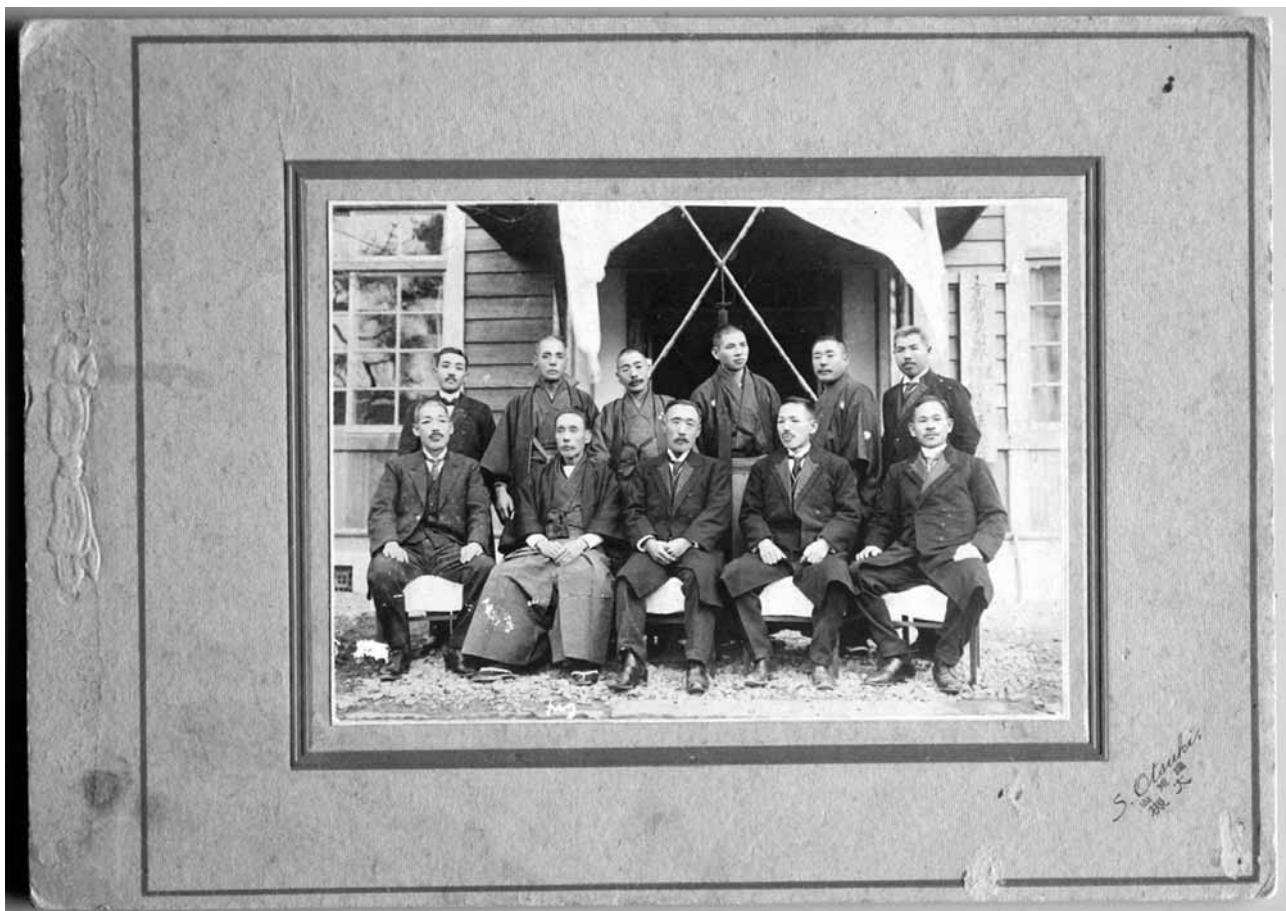


写真 8 京都府天田郡役所時代 大正 5～11 年 天田郡役所前(?)の記念写真、職員 11 名、
旗の掲揚あり、前列中央は郡長(?) 台紙 : S.Otsuki, 福知山 大槻 (S6)

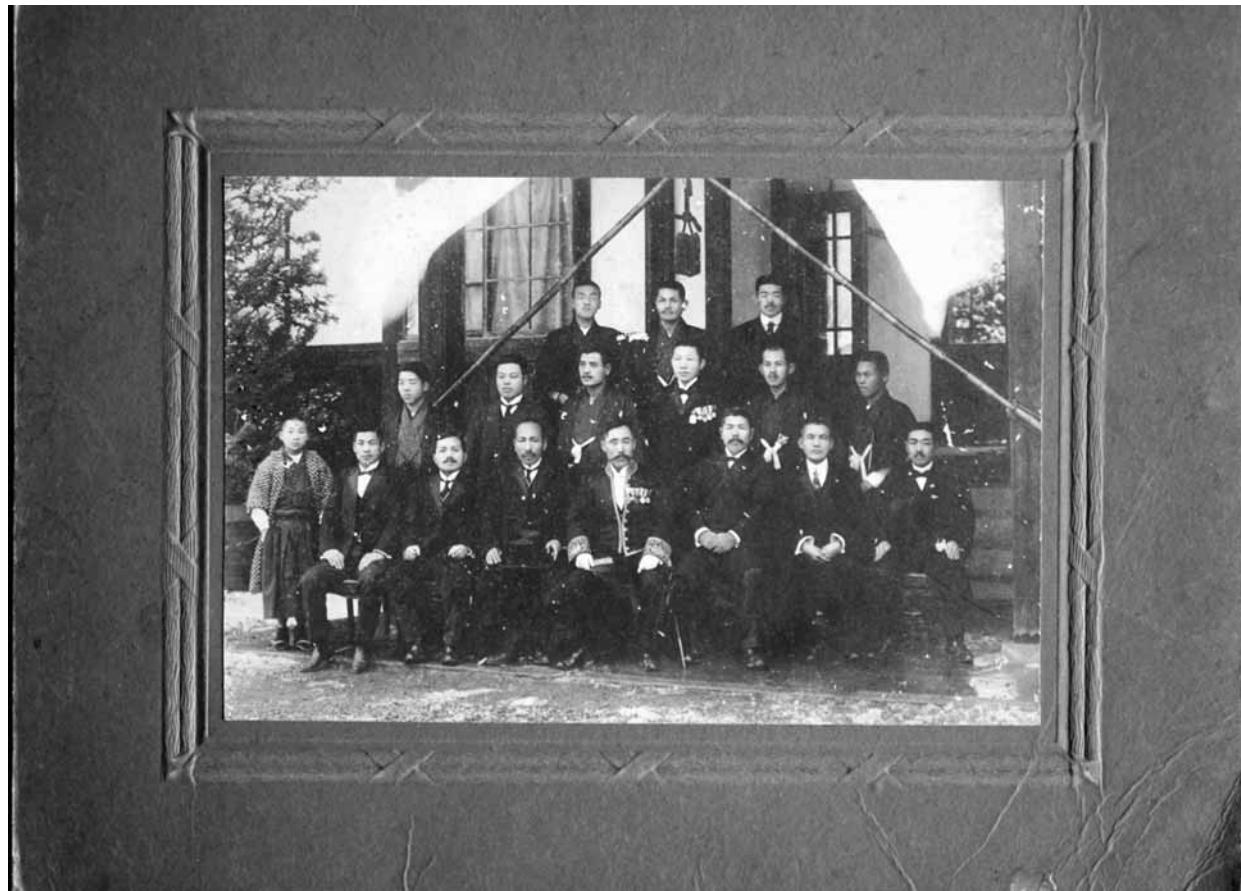


写真 9 京都府紀伊郡役所時代 大正 12~13 年 郡役所前の記念写真、
職員 16 名と子供 1 名、前列中央は郡長 (S8)



写真 10 京都府紀伊郡役所時代 大正 12~13 年 伏見慈善会立幼稚園第 1 回卒業式記念
台紙 : M.KAMEI, FUSHIMI, JAPAN. カメイ (S16)



写真 11 内務省復興局時代 大正 14 年 4 月 12 日 観桜会記念 荒川堤
臨時テント内での宴会風景、左列左端が小林善九郎 (S17)



写真 12 峰山町助役時代 昭和 3 年 9 月～昭和 4 年 8 月 小西川改修の記念写真、
9 名全員がコート着用、左から四人目小林善九郎、同五人目太田静男町長
台紙：田村写真館 京都府峯山町 A.TAMURA (S12)



写真 13 峰山町助役時代 昭和 4 年 11 月 峰山尋常高等小学校竣工式(?)記念写真
玄関前の小学校教職員および関係者 最前列左から 2 人目小林善九郎、
3 人目太田静男前町長（昭和 4 年 8 月に町長辞職）
台紙：SEKIGUCHI MINEYAMA KADOYA カドヤ峰山 電話二十四番 (S11)



写真 14 峰山町助役時代 昭和 5 年 4 月 22 日 浜田恒之助元京都府知事震災地視察記念
9 名、前列右から 2 人目浜田元知事、同 3 人目中村治作元町長、
刻印：S.SEKIGUCHI MINEYAMA・KADOYA (S9)

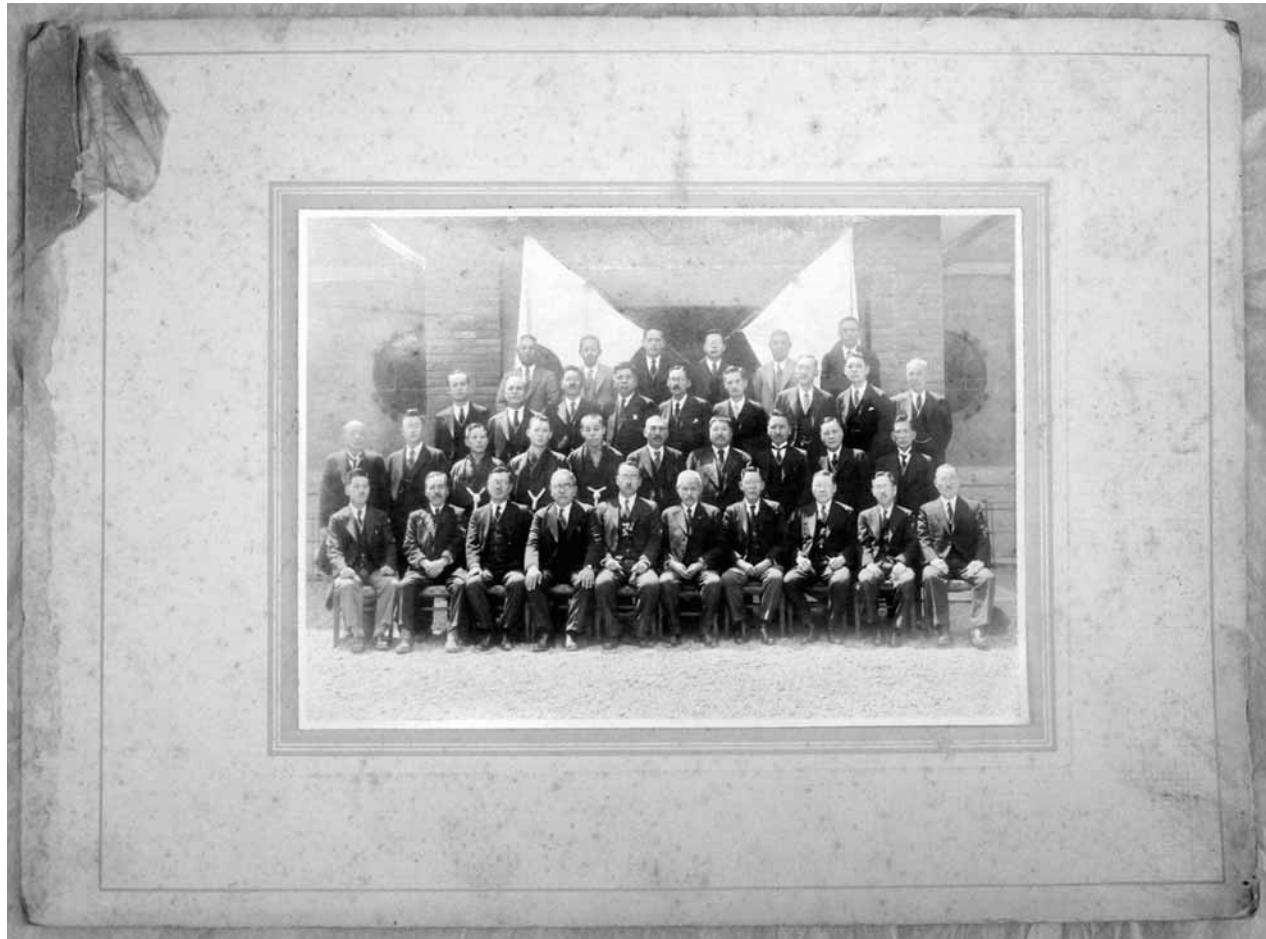


写真 15 福知山市会議員時代 昭和 12 年 8 月(?) 福知山市会議員第 3 期選挙当選者
および関係者記念写真 35 名(当選者 30 名) 福知山市役所前
後より 2 列目、左から 4 人目 小林善九郎 (S23)



写真 16 福知山市会議員時代 昭和 13 年 福知山警察署前記念撮影 85 名 (S22)



写真 17 福知山市会議員時代 昭和 17 年 10 月 28 日 兼六園記念
市会議員仲間との金沢旅行のスナップ写真、前列右から 2 人目 (S21)



写真 18 福知山市会議員時代 昭和 17~20 年 28 名 サーベル所持の 2 名は警察官、
小林を含む 12 名は軍服着用、警察服 3 名 (S18)

II. 小林善九郎の活動履歴

植村善博

一・小林善九郎の生涯

小林善九郎は明治一八（一八八五）年に京都府天田郡下豊富村字押師に出生した。生家の小林家は旧押師村の庄屋をつとめた農家である。押師村は福知山町中心部から西南西へ約三・五kmに位置し、和久川が形成した谷底低地を中心とする水田農村地域である（図1）。明治三七（一九〇四）年に京都府立農林学校を優秀な成績で卒業した。その後、福知山町、岐阜市、長崎市、伏見町、東京市、峰山町と勤務地を変転しながら主に地方官僚として勤務を続けた。昭和五（一九三〇）年には公職を辞し下豊富村字押師の自宅に帰郷した。その後は地元営農者の信用販売購買利用組合理事長を長く務めたほか、昭和一二（一九三七）年に福知山市政の実施に伴う市会議員選挙に当選し、市会議員を二期一〇年間勤めている。そして、太平洋戦争終戦直後の昭和二一（一九四六）年一〇月一日に満六一才の生涯を閉じた。

小林善九郎の六一年間の生涯を表1の年譜に要約して示す①。この表に従つて彼の生涯をI～VIIの7期に区分した。以下では、各期ごとに主な活動とその背景を明らかにし、明治大正昭和前期を通じて激動の歴史を生き抜いてきた小林善九郎の活動履歴と彼の生き様を描いてみたい。

二・第一期 摺籃時代

明治一八年一二月二一日に押師村の小林亀吉・チヨコの長男として出生、弟定之助と妹のぶとの二男一女の家庭に育つた。押師は近世を通じて九八三石の福知山藩領に属した農村であるが、福知山から兵庫県氷上郡西部（現在の青垣町）へ達する街道に面している。明治二三年（一八八九）年厚、半田、新庄、今安、大門他の一、二村とともに下豊富村を形成した。明治三〇年三月地元の榎原尋常小学校高等科修業後、明治三五（一九〇二）年四月一日京都府立農林学校本科に入学。特待生に選定され手当年二四円を給され、翌年もこれを受給している。同校は当時京都府葛野郡桂村に所在し、本科は二年であつた。明治三七年四月一日に卒業（第一六二号）、同年の卒業生は三六名で、在学中の品行

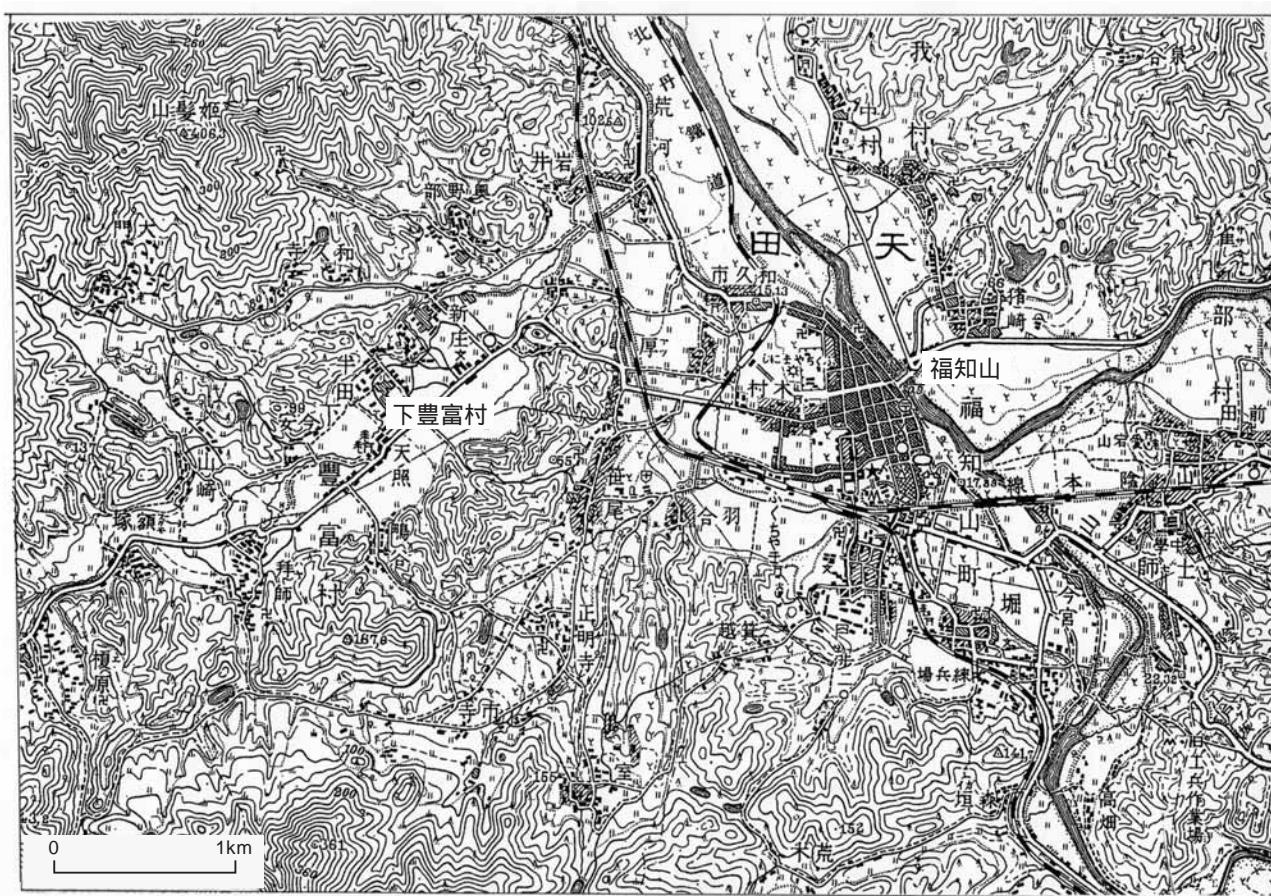


図1 天田郡下豊富村字押師と福知山町（明治26年測図、大正9年修正、5万分の1福知山）

小林善九郎 年表

本籍地： 京都府天田郡下豊富村字拝師

区分	西暦	和暦	事項	備考
I	1885	明治18年12月21日	京都府天田郡下豊富村に小林亀吉・チヨコの二男一女の長男として出生	
	1894	明治27年4月4日	同村立榎原尋常小学校修業(第11号)	
	1897	明治30年3月29日	同村立榎原尋常小学校高等科修業(第11号)	
	1904	明治37年4月1日	京都府立農林学校本科卒業(第162号)	
II	1904	明治37年9月17日	福知山区裁判所書記	
	1904	明治37年11月21日	上夜久野村立精華尋常高等小学校付設農業補習校訓導	
	1906	明治39年12月	陸軍1年志願兵として第20連隊に入隊	
	1907	明治40年11月30日	陸軍軍曹に任官	
	1908	明治41年2月26日	陸軍將校試験及第	
	1908	明治41年4月1日	与謝郡農会技手	
III	1908	明治41年8月30日	大日本産業組合中央会京都支会の講習会所定科目を修了	J1
	1909	明治42年6月9日	産業組合中央会岐阜支会主事を命じられる(月俸35円)	J2
	1909	明治42年12月28日	陸軍歩兵少尉に昇進	J4
	1913	大正2年8月11日	産業組合中央会岐阜支会主事を依頼免職	J12
	1913	大正2年8月23日	長崎県技手に任用, 産業組合中央会長崎支会主事を命じられる	J13
	1915	大正4年4月30日	長崎県技手を依頼免職, 拝師へ帰郷	J15
IV	1916	大正5年3月14日	京都府天田郡書記 庶務掛に任じられる(月俸27円・陸軍少尉正八位)	J18
	1916	大正5年4月6日	産業組合中央会京都支会天田部会主事を命じられる	J20
	1919	大正8年4月28日	日本赤十字社京都支部天田郡委員部事務委員を嘱託される	J26
	1920	大正9年3月29日	陸軍歩兵中尉に昇進	J29
	1923	大正12年2月28日	京都府紀伊郡書記に任じられる(給五級俸)	J39
	1923	大正12年6月1日	京都府山林会紀伊郡書記を嘱託される	J41
	1923	大正12年7月9日	紀伊水防区委員に任命	
	1923	大正12年9月	紀伊郡長職務管掌を命じられる	J42
V	1924	大正13年5月23日	内務省復興局に技手兼属として出向(整地部庶務課兼施業課, 給四級俸)	J43
	1925	大正14年9月8日	補償審査会書記を嘱託される(大正15年6月25日まで)	
	1926	大正15年5月25日	東京第2出張所整地課勤務を命じられる	J48・49
	1927	昭和2年5月1日	東京市市民講座芳門会幹事に補命される	J50
	1928	昭和3年6月15日	東京市庶務課兼工事課勤務を命じられる	J53
VI	1928	昭和3年8月25日	京都府峰山町有給助役に選任, 町長太田静男	J55
	1928	昭和3年9月4日	峰山町助役月俸100円の給与通知	J56
	1928	昭和3年9月8日	東京市事務員を依頼免職	J57
	1930	昭和5年8月29日	峰山町助役を退職(月俸110円に昇給), 福知山に帰郷	
VII	1931	昭和6年3月	下豊富信用販売購買利用組合理事に当選	
	1931	昭和6年12月	同信用販売購買利用組合理事長に就任、昭和18年3月まで12年間在職	
	1937	昭和12年4月	福知山市会第1期選挙に当選, 20年8月終戦まで2期市会議員となる	
	1946	昭和21年10月1日	自宅屋根修理中に転落, 死去(満61才) 妻(ゆき)との間に1男2女	

方正学術優等により硯箱一組を賞与されている②。

三・第Ⅱ期 遊巡時代

明治三七年九月一七日福知山区裁判所書記として採用された。農家の長男として下豊富村押師の実家へもどり、農業との兼業就職の道を選んだのであろう。しかし、明治三七年一一月二一日には天田郡上夜久野村立精華尋常高等小学校付設農業補習学校の訓導になつてゐる。自分の専門知識を活かす教育の道へ転じたといえる。二年後の明治三九（一九〇六）年一二月一日には福知山の歩兵第二〇連隊に一年志願兵として入隊、徵兵忌避のためかと推定される。翌年一月三〇日陸軍歩兵軍曹に任じられた（図2）。福知山町には第二〇旅團司令部と歩兵第二〇連隊が、明治三二（一八九八年）年に大阪から移駐してきた。これに伴つて、翌年には大阪と福知山間の阪鶴鉄道がいち早く開業している。

ついで明治四一年二月二六日に陸軍將校試験に及第、同四二年一二月二八日に陸軍歩兵少尉に任官した。さらに、大正九年には陸軍歩兵中尉に昇進しており、彼の軍人としての側面にも注意しておきたい。除隊後、明治四一年四月一日に京都府与謝郡農会の技手となり月俸二五円を給与される。同年八月に大日本産業組合中央会京都支会開催の講習会を受講し、所定科目を修了していることが注目される。

四・第Ⅲ期 大日本産業組合中央会時代

明治四二年六月九日、上記の講習科目修了が決め手となり大日本産業組合中央会岐阜支会の主事に採用された。月俸三五円を給与されて岐阜市に赴任、岐阜県において同年より大正二年までの約四年間勤務することになる（図3）。この間、天田郡中筋村字高津（現綾部市高津町）の大槻家の次女、悠紀と結婚（図4）、岐阜市において夫婦生活を開始、ここで長女富美が誕生している。ついで、大正二年八月一日付で岐阜支会主事を辞職。同年八月二三日に長崎県職農業技手に任命られ月俸四〇円を支給されている。そして、同日付で産業組合中央会長崎支会主事を兼任し月俸五円を受ける。以後、約二年弱の間長崎市に居住し、次女治野はここで出生した。また、大正三年一月一二日の桜島大噴火に際し救恤金施与に對して鹿児島県知事からの感謝状を受けている。

大正四年四月三〇日に長崎県技手および長崎支会主事を依頼免職になり、下



図4 岐阜市における新婚時代の写真



図2 歩兵第20連隊時代



図3 岐阜時代の同僚と

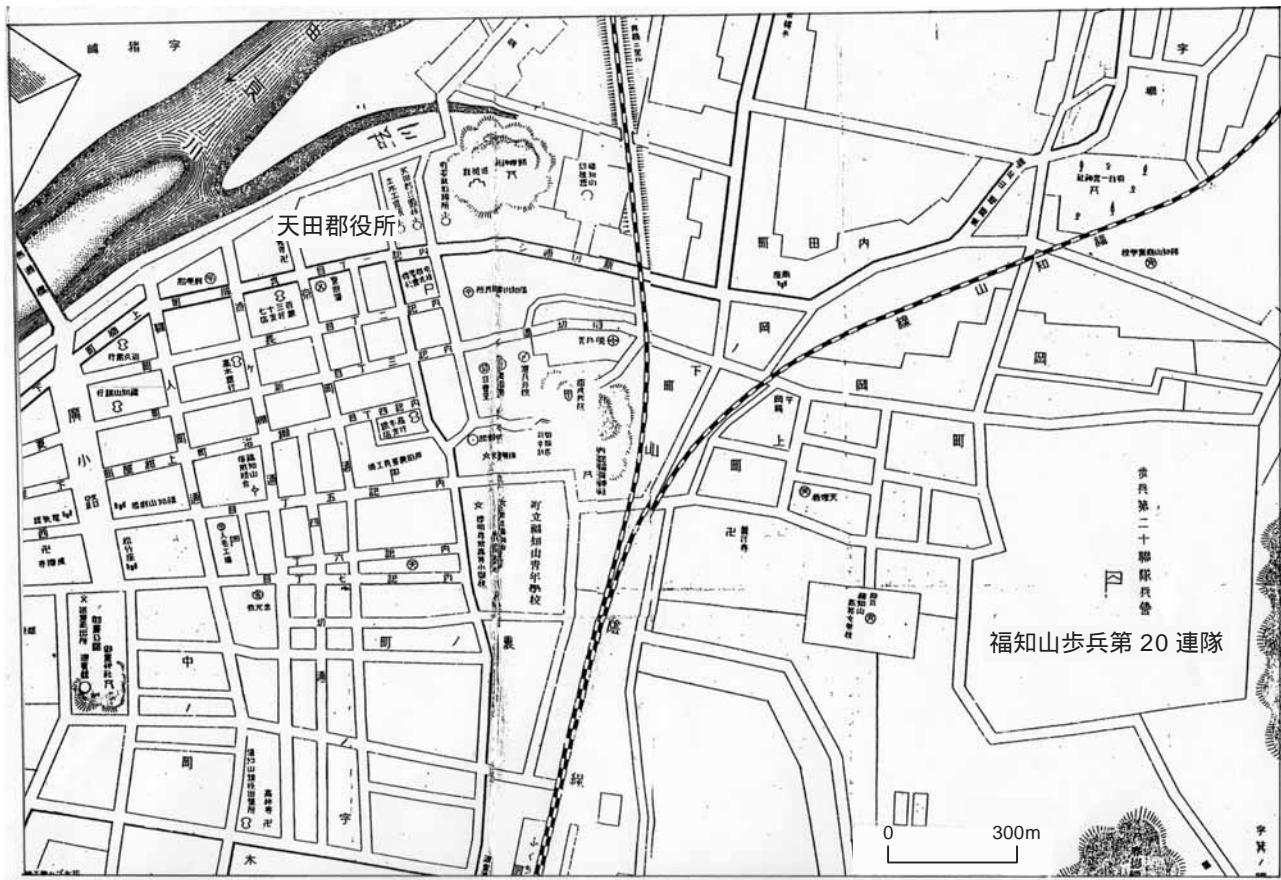


図5 昭和11年福知山町市街地図（天田郡誌）



図6 天田郡役所時代

豊富村拝師に帰還している。これは同年三月一日に家長であり実父の小林亀吉が五六歳で逝去したため、長男として家督相続のために帰郷した可能性が高い。産業組合中央会および県職の仕事は岐阜および長崎を合わせて計約六年間継続した。しかし、地元にもどつて家業を継いだため約一年の空白期間が生じている。この間、大正四年九月には帝国在郷軍人会下豊富分会長を嘱託された。

五・第IV期 京都府郡吏時代

大正五（一九一六）年三月一四日に天田郡役所書記に任命され月俸二七円を受ける。長崎県時代の約半分の俸給になった。同年三月一六日に庶務掛を命じられ、四月六日には産業組合中央会天田郡部会の主事を命じられている。当時、福知山町内記一丁目に所在した天田郡役所に約七年間勤務した（図5）。この間、日本赤十字社天田郡委員会事務員、在郷軍人会天田郡聯合分会副長を嘱託され、たびたび選挙投票所監視を命ぜられている。天田郡役所が公務員として最も長い役所勤務期間となる（図6）。なお、大正九年三月二九日に陸軍歩兵中尉に昇進した。

大正二二（一九二三）年二月二八日に紀伊郡役所書記に任命され、五給俸を受ける。拝師を離れ伏見町に赴任している。彼は有能な吏員として実力を認められ、紀伊郡書記に榮転したといえよう（図7）。同年六月一日京都府山林会紀伊郡書記を嘱託、同年七月五日紀伊水防区委員を命ぜられた。そして、伊郡役所は伏見町下板橋町（現伏見中学校付近）にあり、伏見赴任中は御堂前町の横原方に単身寄宿していたようである（図8）。当時、紀伊郡役所は伏見町下板橋町（現伏見中学校付近）にあり、伏見赴任中は御堂前町の横原方に単身寄宿していたようである（図9）。大正一二年に長男利定が拝師で生まれ



図7 紀伊郡役所時代



図8 伏見慈善会立幼児園卒業式

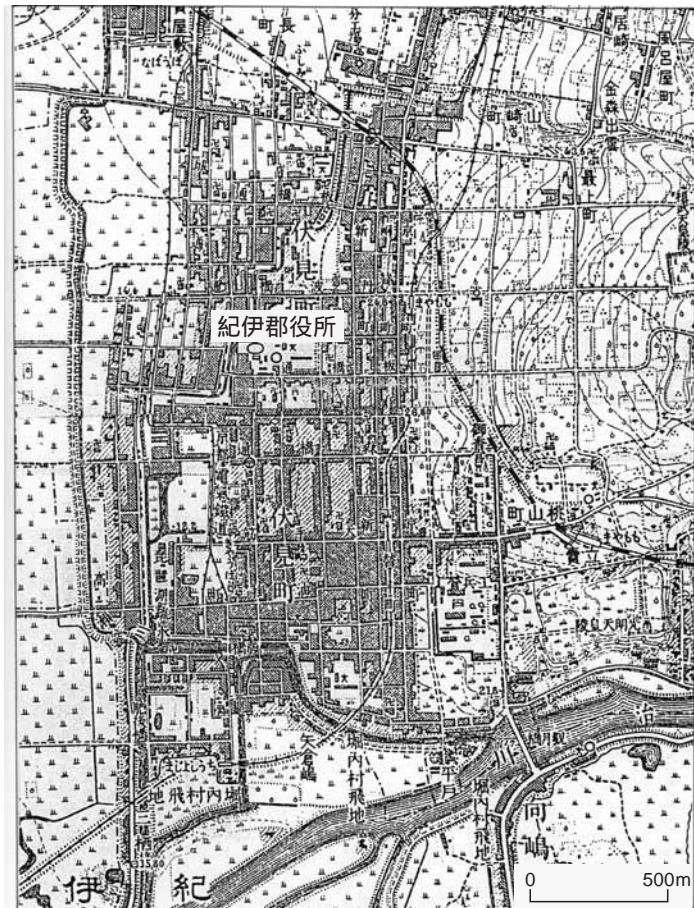


図9 明治 42 年測図 2 万分の 1 京都南部・淀

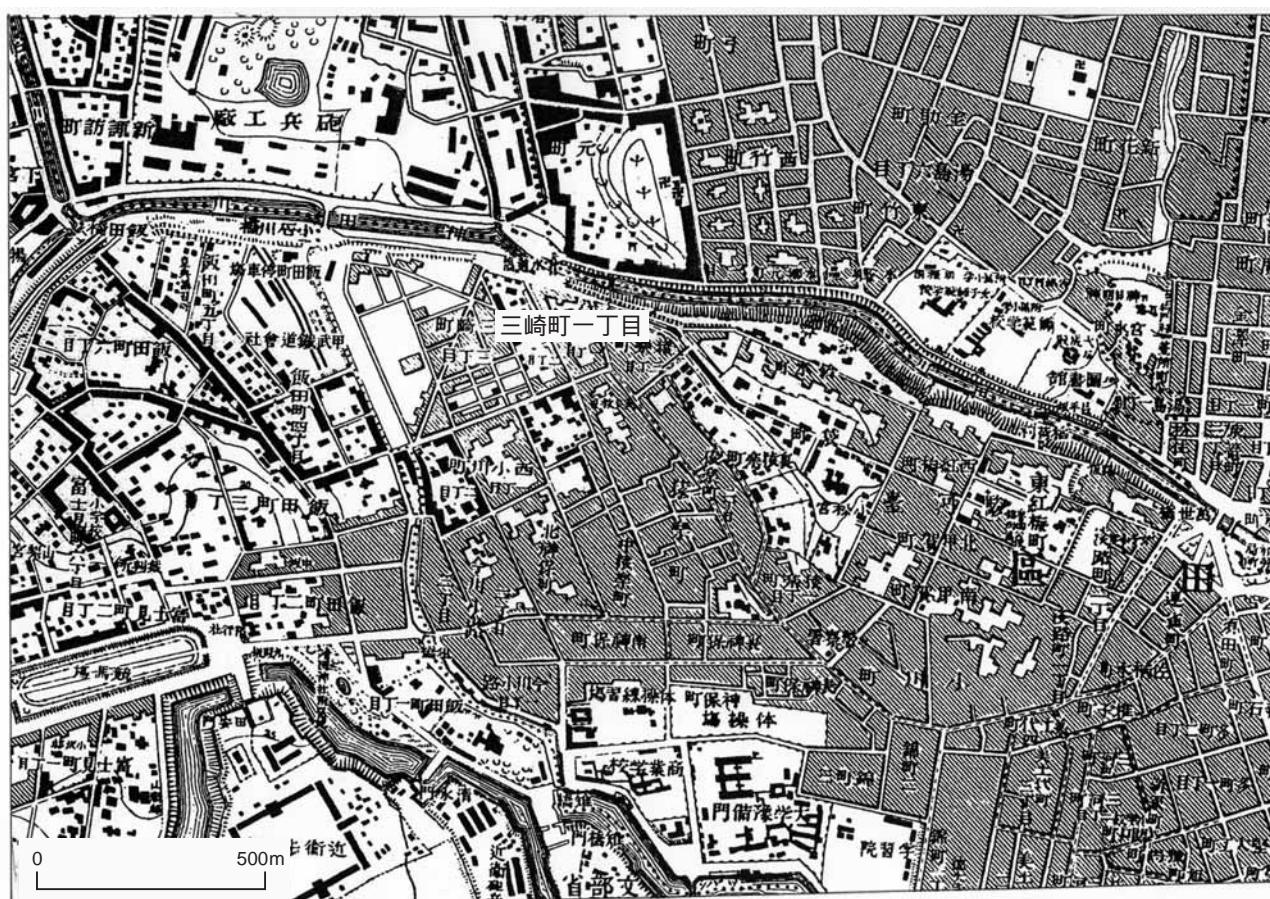


図10 明治 30 年修正 2 万分の 1 迅速図 麻町区

ている。当時、郡制度廃止法が大正一〇年に公布、同一二年に郡制および郡会が廃止され、同一五年七月には郡役所が完全廃止されている③。郡役所の廃止に伴う失職が目前に迫った状況下、大正一二年三月付の貴族院議員湯浅倉平へ就職斡旋依頼の手紙（下書）が残っている。内務官僚出身の大物政治家、湯浅に対して再就職のための依頼工作をおこなっている点は注目に値する。

六. 第V期 内務省復興局時代



復興局時代の観桜会

大正一三年五月二三日付で内務省復興局に技手兼属として出向を命ぜられ、給四級俸を受ける。五月二九日付の辞令書では整地課（ママ）勤務および整地部庶務課兼施業課勤務となつてある。当時の復興局長は直木倫太郎である。同年九月八日補償審査会の書記を嘱託されている。関東大震災直後の大正一二年九月二七日に設置された帝都復興院は、格下げ縮小されて翌一三年二月二五日内務省の外局として設置された復興局に引き継がれた。当時の東京市は関東大地震災からの復興事業の真最中であった。前東京市長後藤新平らによって主導された帝都復興事業は大規模な都市改造計画による新都市創成を目標としていたが、議会での反対や妨害によつて予算の削減、復興院の局への権限低下など多くの困難に遭遇した④。しかし、焼失した下町地区を中心[new]に新しい地割と新道路網の建設をめざす区画整理事業が進行中であった。彼が赴任した整地部は区画整理の計画策定と実施を担う職場である。具体的には、地図の作成と現状確認、既存建物や仮設住宅の撤去、地主や住民との移転や土地買収価格についての交渉、境界決定と登記などの実務を担当していた。

興味深いのは大正一三年一〇月に創設され兵庫県内に事務局をおく兵庫県都市研究会の機関誌『都市研究』に二回寄稿していることである⑤。

大正一五年六月発行の一巻三号には区画整理事業について述べているが、時まさに同年五月二三日の北但馬地震により壊滅的被害を受けた豊岡・城崎両町で震災復興区画整理が計画、実施されようとしていた。大正一五年五月二十五日には東京第二出張所整地課勤務を命ぜられている。東京第二出張所は神田区三崎町一丁目五番地に所在し、内務省および東京市からの派遣職員を中心に一四六人を擁する組織で、区画整理事業を遂行する最前線である（図10）。同出張所は麹町区、神田区、日本橋区という東京の心臓部にあたる都心の三区を対象に、国施行の六区と市施行の九区（うち二区は助成）の区画整理事業の実務を担当していた。小林は文書の立案収発と整理、課長印保管、課員の看守と取締、土地の誤謬に関する事項を所管する庶務関係の責任者としての地位にあつた。現場に出て直接住民と接触、交渉するというより、室内において仕事の立案と進捗状況の点検、書類の発行と整理・保存、課員の看守といった管理・監督的役割を担当していたように感じられる。これには予備役軍人である彼の身分が関わっている可能性がある。ともかく、苦労の多い仕事の連続であつたろうと推測される（図11）。昭和一年五月一日東京市民講座芳門会幹事に任命された。昭和三年二月に理由は不明であるが、文官分限令により休職を命ぜられており、特別慰労金七四三円（休職中は三分の一を支給する規程があつた）を給された。しかし、六月一五日には東京市役所庶務課兼工事課勤務を拝命、復職している。東京第二出張所は内務省と東京市からの派遣者による混成部隊であり、職務内容は大きくなれば変らなかつたものと推定される。日々、復興が進行していく東京市震災復興区画整理事業の最先端をになう約四年間の生活が続く。当初は、妻子とともに東京での生活を開始した模様で、大正一三年六月に神田区南甲賀町八幡旅館、七月には麹町区四番町の光洋館に滞在した。しかし、その後の早い時期に妻子を郷里へもどし、住所を麹町区三番町五六堀切二郎方において単身寄宿生活を開始したと思われる。多忙な復興関係の仕事に専念従事するための処置かと推定される。なお、堀切は大正一五・昭和四年の復興局長をつとめた堀切善次郎の縁戚者であろう。復興局および東京第二出張所における彼の活動状況と復興事業への関与、第二出張所管内の区画整理事業の実務と進捗過程などを知る上で貴重な復興局関係の文書類が残されている点は重要である。

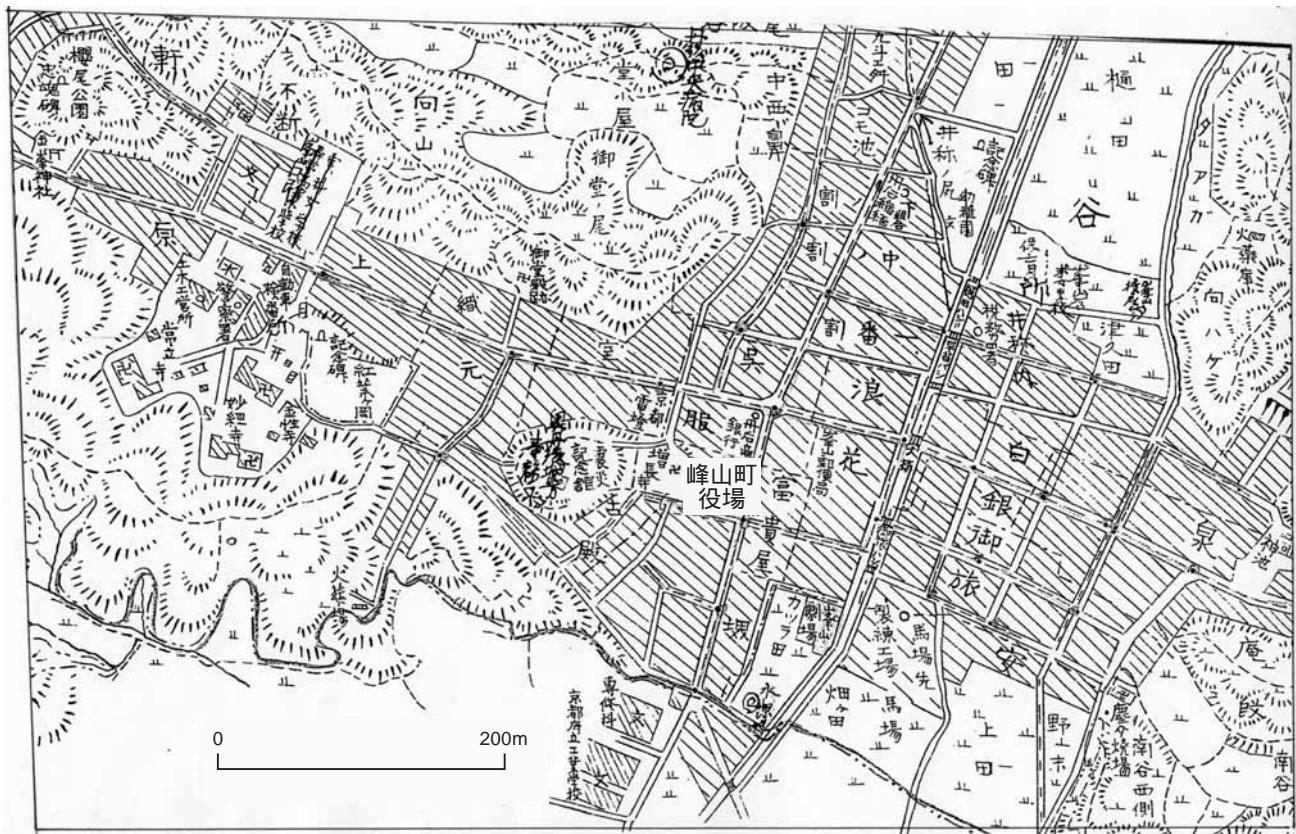


図 12 昭和 10 年峰山町全図、昭和 21 年手書修正（京丹後市）



図 15 峰山町道路拡幅図（植村原図）



図 13 太田町長（中央）と小林



図 14 濱田元府知事（前列右）、
中村元町長（前列左）らと小林

七・第VI期 峰山町助役時代

京都府中郡峰山町長太田静男からの昭和三年八月二十五日付有給助役に選任の辞令書。九月四日付月俸一〇〇円の通知書が残っている。東京市事務員の依頼免職辞令は九月八日付である。東京を離れて九月初旬には新任地の中郡峰山町に単身赴任した（図12）。住所は同町吉原七四番地の一になつていて。昭和二年三月七日の北丹後地震により峰山町は潰滅的な被害をうけ、火災により焼野原状態になつた。本町の死亡率は24%、焼失率は98%に達し、まさに全滅状態に陥つた。峰山町の復旧復興事業は発震時の町長中村治作およびその後を引継いだ太田静男を中心に進められてきた。復興事業として府道二路線および町道一八路線の改良拡幅工事を優先して実施している⑥。昭和三年頃の峰山町は、道路潰地の境界や面積の確定、土地評価額と用地の買収交渉、買収予算の不足などに辛苦していた時期にあたつている⑦。この状況を開拓する切り札として東京市における区画整理事業の経験を持つ小林が起用されたのである。太田は大正六～七年に加佐郡役所書記を務めており、天田郡書記であつた小林と知己を結んだことが推定される（図13）。

昭和五年八月まで約二年間、助役としての日常業務および震災復興事業に従事した。しかし、京都府および峰山町による復興事業の分担や具体的な実施状況については記録類を欠いており不明な点が多かつた。彼の赴任から七ヶ月後の昭和四年四月二十五日に峰山町公報第一号が発刊されている点は注目される。これは復興局公報とよく似た様式であつて、小林が発行を企画、実行したとみてよいだろう。辞職約一ヶ月後の昭和五年九月二〇日の第一四号で終刊となつた可能性が高く、小林がこの発行の中心人物であったことは確実である（図14）。今回新たに存在が確認された全一四冊の峰山町公報は昭和四～五年の間に峰山町政の動向や復興事業の進捗状況が読みとれる貴重な情報源である。

助役勤務は昭和五年八月二九日付の退職により終了した。すなわち、昭和五年八月には用地買収の資金が確保され、事業遂行の目途がたつた時点であり、これを機に帰郷を決意したものと推定される。すなわち、道路用地の約九割の分筆、買収、移転登記が退職後の昭和五年度内に実行されているのである（図15）。

八・第VII期 福知山時代

昭和五年八月末、峰山町から坪師への帰還は、郷里に錦を飾る快挙と受け取られたことであろう。伏見町への赴任以来約七年ぶりの里帰りであり、久しぶりに妻子との家庭生活が再開された。古くなつた実家を新築したのもこの直後である。一方、地元において彼のキャリアは貴重であり、翌六年三月下豊富信用販売購買利用組合の理事に選任され、同年一二月に理事長に就任している。以後、昭和一八年三月の退職まで約二年間にわたり郷里の営農者のための共同組合組織の長として貢献した。一方、下豊富村は昭和一一（一九三六）年一〇月一日に雀部村、庵我村とともに福知山町に編入され、昭和一二年四月一日に福知山市制が施行された。これに伴い同年四月二二日に第一期市会議員選挙（定員三〇名、立候補五一名、任期五年）が実施された⑧。彼は、これに立候補して当選を果している。しかし、最初の市会選挙では現金が飛び交う露骨な選挙違反が横行し、大きな汚点を残すことになった。このため、五月二一日の市会において議員全員が辞表届を出す事態になる。七月一日の第二期選挙では一七名の当選を決定したが、当選者五名が辞退して市会が成立しなかつた。結果、再々選挙という異常事態になり第三期選挙が同年八月八日に実施される。小林は選舉肅正、公民參政徹底をスローガンとした愛市連盟の推薦をうけて立候補、四一名の立候補者の中で当選をはたしている（図16）。また、同一七年六月四日の第四期選挙でも再選され、昭和二〇年八月一五日の終戦時を経て市



図16 当選市会議員30名と関係者
(下段中央)



図17 軍服姿の小林

会議員を二期務めた。なお、戦時下における彼の活動については不明であるが、

陸軍予備役中尉という地位は軍国主義が地域に浸透していく過程において重みのあるものだったことが推定される（図17）。戦後初の第五期市会選挙は昭和二二年四月三〇日に実施されるが、彼は立候補していない。その前年、昭和二一年一〇月一日、自宅の修理作業中に屋根から転落して満六歳で死去したのである。戒名は慶徳院積應亮善居士、妻悠紀（昭和四六年に満八五歳で逝去）とともに拝師南方の丘上の共同墓地に眠っている。

まとめ

（1）小林善九郎は明治一八年出生から昭和二一年の逝去まで六一年間の生涯において、激動の近代日本の歴史を経験しながら主に地方官僚としての生活を送った。この間、大日本産業組合中央会技手として岐阜県と長崎県において活躍、次いで京都府天田・紀伊両郡役所に郡吏として勤務した。郡役所の廃止に伴い、内務省復興局へ技手兼属として出向した。その後、京都府中郡峰山町助役に抜擢された。壯年期に岐阜、長崎、福知山、伏見、東京、峰山と各地を転々とする生活を送った。

（2）内務省復興局勤務時代は関東大震災後の東京市における復興事業に従事した。復興局整地部および東京第二出張所整地課は復興区画整理の計画策定と実施を進める最前線にあった。ここでの経験を買われて丹後震災で潰滅的被害を受けた峰山町助役に選任され、町政および復興事業の推進に邁進した。関東および北丹後の二つの大地震後の震災復興事業に直接従事した経歴は、彼の官僚生活において頂点をなす最も重要な活動だったといえるだろう。

（3）昭和五年に郷里へ戻り、地元の信用販売購買利用組合理事、理事長を二年間にわたり務め、地域に貢献した。また、福知山市議員として三回当選を果たしている。

（4）職業人として、その前半は優秀な地方官僚として、後半は地元の名士として地域への貢献活動に従事している。これら全期間を通じて、帝国陸軍予備役将校（少尉・中尉）としてのもう一つの顔を見過ごすことはできない。すなわち陸軍軍人として軍国主義の躍進と戦時下において、職場や地域の指導者としての顔をもつ人物であったといえよう。

注

①年表作成にあたっては本文書資料の他、京都府立総合資料館 『京都府行政文書昭七一一六一「判任官退官者履歴」』によるところが大きい。

②京都府立大学百年史編纂委員会編（一九九五）『京都府立大学百年史』、七二五ページ

③福島幸宏（二〇〇八）『郡役所の廃止と文書整理——京都府内の郡役所を例として、『京都府行政文書』を中心とした近代行政文書についての史料学的研究』、科学研究補助費研究成果報告書（代表：京都府立大学小林啓治）、六五〇九〇

④越沢明（二〇〇五）『復興計画』、中公新書一八〇八、二七〇ページ

⑤新藤宗幸編（二〇〇七）『後藤新平 大風呂敷の実相』、東京市政調査会、一四三ページ

⑥小林善九郎（一九一五）『土地区画整理組合に就いて、都市研究、一一一、四一〇四六

⑦小林善九郎（一九二五）『東京都市計画区画整理事業の進行とバラツク移転状況、都市研究、一一三、五〇〇五三

⑧福知山市議会史編さん委員会編（二〇一三）『京丹後市の災害』、京丹後市史資料編、二七七ページ

⑨植村善博（二〇一三）『一九二七年北丹後地震における峰山町と網野町の復興計画、歴史地震、二八、四九〇五五

⑩福知山市議会史編さん委員会（一九九八）『福知山市議会六〇年のあゆみ』、四五四ページ

III. 小林善九郎関係文書解題

奥田 裕樹

はじめに

本稿では、「小林善九郎関係文書」（以下「同文書」）の史料調査の結果から「同文書」の概要を紹介するものである。

今回の「同文書」の史料調査及び整理は、史料の点数を確認することを主目的に行われた。なお、文書調査の原則としては、文書の原秩序の尊重が求められているが、今回の「同文書」の調査では、史料調査の作業を行う際に、文書の原秩序が確認できなくなつていたため、今後の文書利用の観点も考慮して便宜的に辞令、行政、復興局、峰山、書簡、写真、書籍、地図、覚、そのほかの十項目に分類して、目録を作成した。

分類ごとの史料点数は、辞令：七点、行政：三〇点、復興局：五五点、峰山：一五点、書簡：一五四点、写真：二八点、書籍：一二三点、地図：九点、覚：六点、そのほか：九点となり、「同文書」の総点数は五〇三点となつた（表1）。

一、小林善九郎関係文書の年代構成について
「同文書」の年代構成は、明治期（一八九七（明治三〇）年以降）：一六点、大正期：一七五点、昭和期：一八七点となり、大正・昭和期の史料で全体の七二パーセントを占めており（表2）、「同文書」が小林善九郎（以下小林と表記）のキャリアの大半を占める時期の史料が多く含まれる文書群であることが確認できた。

そこで、小林の生涯を前章に従い、I期からVII期までに区分して、史料点数を確認し、併せて各期の時代背景を概括し、日本近代史上の位置付けを明確化する。

I期は、小林の出生から京都府立農学校を卒業する一八八六（明治一九）年より一九〇四（明治三七）年となる。当該期は、日本が帝国憲法の発布、国会開設と近代立憲国家として確立するとともに日清戦後の台湾の植民地化により、植民地帝国として出発した時期である。また、一九〇四（明治三七）年一月に

は日露戦争が開始された。

II期は、福知山区裁判所書記として勤務を始める一九〇四（明治三七）年七月から大日本産業組合中央会京都支会講習会を修了する一九〇八（明治四二）年までの時期とする。この時期は、日露戦後経営が開始され、軍備の拡張、重工業産業育成、地方自治の再編などが行われた。

III期は、一九〇九（明治四二）年の大日本産業組合中央会岐阜支会主事任命から一九一五（大正四）年四月の長崎県技手依頼退職までの時期とする。この時期は、「憲政擁護、藩閥打破」を掲げる第一次護憲運動がおこり、第三次桂太郎内閣が倒れるなど民衆運動・社会運動が盛り上がりを見せた。

IV期は、一九一六（大正五）年の京都府天田郡書記への任命から一九二三（大正一二）年の京都府紀伊郡書記への任命の時期にある。この時期は、各地で米騒動などの騒擾事件が多発する中で、原敬内閣が初めての本格的政党内閣として成立した。

V期は、一九二四（大正一二）年内務省復興局技手兼復興局属への出向から一九二八（昭和三）年の東京市役所庶務課兼工事課勤務の時期とする。この時期には、加藤高明内閣による普選法の成立がみられ、一九二八（昭和三）年五月に、初めての普選が実行され、また、対外的には田中義一内閣による、居留民保護を名目とする第一次、第二次山東出兵が行われた。

VI期は、一九二八（昭和三）年八月の京都府中郡峰山町の助役就任から一九三〇（昭和五）年の退任までとする。この時期は、一九二九（昭和四）年の世界恐慌に端を発する昭和恐慌がおこり、国民の生活が極度に悪化することになった。

VII期は、帰郷後下豊富信用販売購買利用組合理事就任より小林の死去する一九三一（昭和六）年から一九四六（昭和二）年までの時期である。この時期は、五一・一五事件により政党内閣が崩壊した。また、満州事変の勃発から満州国の建国、国際連盟の脱退と当時の国際協調体制からの離脱が行われ、その後、一二・二六事件の発生後の軍部の政治関与の強化、日中戦争の開戦、太平洋戦争開戦と戦争の時代となつた。

以上、年代区別に史料点数を示すと、I期：四点、II期：一点、III期：三一点、IV期九九点、V期：一四九点、VI期：四二点、VII期：九七点、年代を推定できないもの：八〇点となつていて（表3）¹。

二、小林善九郎関係文書の概要

本章では、「同文書」の目録の分類に沿い、前章で示した小林のⅠ期からⅧ期までの区別に重要な史料について内容を示し、「同文書」の概要を明らかにする。なお、「史料名」後に示す【】のなかのアルファベットとアラビア数字は、目録の文書番号である。

(一) 辞令

辞令の史料点数はⅡ期：一点、Ⅲ期：一六点、Ⅳ期：一五点、Ⅴ期：一二点、VI期：五点、VII期：六点。内容としては小林の辞令書・修了書・給与通知・当選告知書・感謝状といったものが含まれており、Ⅱ期の一九〇八（明治四二）年八月三〇日付大日本産業組合中央会京都支会講習会の「修了証」【J1】から

VII期の一九四四（昭和一九）年一一月付福知山教育会「感謝状」【J63】まで小林善九郎の経歴が追えるものである。特に、Ⅲ期の一九〇九（明治四二）年六月九日付の産業組合中央会岐阜支会主事についたことが確認できる「辞令書」【J2】、IV期の一九一六（大正五）年三月一四日付の天田郡役所書記任命の「辞令書」【J18】、V期の一九二四（大正一三）年五月一九日付の復興局技手兼復興局属任命の「辞令書」【J43】、VI期の一九二九（昭和四）年八月一五日付の京都府中郡峰山町有給助役への「選任通知書」【J55】と、小林の経歴において転機となつた出来事をみることができる史料が数多く含まれる。⁴ この他には、一九〇九（明治四二）年二二月二八日付陸軍少尉「任命書」【J4】や一九一五（大正四）年九月二三日付帝国在郷軍人会下豊富村分会長への任命を記す「辞令書」【J16】など、軍人としての側面をあらわす辞令書もみられる。また、職を辞し帰郷後にそれまでのキャリアを活かして地域の役職についたことも、一九三七（昭和一二）年八月八日付の第三回福知山市議員選挙「当選告知書」【J65】²、一九三一（昭和六）年三月から保証責任下豊富信用販売購買利用組合の理事、理事長を務めていたことを示す保証責任下豊富信用販売購買利用組合組合長からの「感謝状」【J61】などから確認できる。

(二) 行政

行政の史料点数はⅢ期：二点、IV期：一五点、VII期：五点、年代を推定できないもの：八点。内容としては、小林のⅢ期・IV期における職務に関連する文書と帰郷以降の役職に関する文書である。当該期の地方行政は、地方改良運動が行政機関・半官半民団体などを通じて行われた時期である。地方改良運動

とは、日露戦後に列強各国と対峙する上で必要な財政的・經濟的・社会的基盤を強権的に全国の町村に創出するべく行われた国家政策であり、地方自治体の再編をもたらすこととなつたとされている³。

III期に関連する文書としては「産業組合講話ノ要領」【G1】がある。この産業組合とは、一九〇〇（明治三三）年に産業組合法が成立し、その後一九〇四年（明治三七）年に中央組織として、大日本産業組合中央会が平田東助を会頭に結成された。産業組合は地方改良運動において、国家と民衆の間に位置し、民衆を日常的に組織しながら、国家を支えるものとして期待されていた機關である⁴。小林は産業組合岐阜支会主事として、組合員の指導にあたる立場にあつた。

IV期に関連する文書としては「天田郡公報第178号」【G8】、「招集徵發事務檢閱日割予定表」【G11】、紀伊郡役所の書記を務めていた時期の産業関連の視察「復命書綴」【G13】、紀伊郡における水害対策の「陳情書」【G14】、【G16】などが含まれる。これら京都府下の郡役所に関連する史料は、現存しているものが少なく⁵貴重な史料である。

VII期の史料として「下豊富村經濟更生計画樹立要項」【G18】がある。これは、昭和恐慌下の窮乏農漁村を救済するために始まつた農村漁村經濟更生運動において小林が、保証責任下豊富信用販賣購買利用組合の理事・理事長として同運動の担い手となつていていたことを示す史料である。農漁村經濟更生運動は、昭和恐慌対策とともに農漁村の仕組を改変し農村の新しい組織化を目指した政策とされる⁶。

また、この他に福知山「市議会議案綴」【G22】などの史料が含まれている。

(三) 復興局

復興局の史料点数はV期：五五点。小林の内務省復興局勤務時の史料である。一九二三（大正一二）年九月に発生した関東大震災の復興にあたり後藤新平内務大臣は帝都復興院を九月二七日に設置し、帝都復興を企図したが、議会が復興予算に反対し、同院のもとでの計画は頓挫した。その後、一二月二七日に摂政宮が狙撃される虎ノ門事件がおこり、山本権兵衛内閣は一二月二九日に總辞職し、後藤も辞任した。帝都復興院も、清浦奎吾内閣下の一九二四（大正一三）年二月二三日に廃止され、その二日後、内務省に帝都復興院を縮小する形で、復興局が成立した⁷。復興局の事業としては、東京市・横浜市を対象にして、

土地区画整理、幹線道路整備、河川・運河改修整備、公園整備などがあり、様々
な都市インフラ整備を行つた⁸。

小林が、紀伊郡役所書記から内務省復興局に移つた時期は、復興事業の開
始時にある。

史料の内容は、小林が復興局業務の参考に供するため、土地整地関連資料を
まとめて綴じた「参考雑録」【F15】、「整地部所属管事項議会説明参考書」【F

14】、「例規集」【F20】、一九二四（大正一二）年から一九二八（昭和三）
年にかけての「復興局公報」【F21・F22】があり、復興行政に携わる小林
の姿と共に復興局行政のあり方を見る事ができる史料となつていて。また、
復興局東京第二出張所「事務引継書」【F23】があり、「ここには土地整理業務
に関する「第一出張所管内地区及地区主任調（昭和二年六月）」・「現在課員表」・
「事務分担ニ関スル件」など復興局東京第二出張所の体制が窺える史料や、「区
画進捗状況」・「指數計算並ニ換地処分案ニ関スル件」など行政の具体的な措置
を示す文書が含まれている。これらは、関東大震災の復興行政の最前線を知る
ことができる貴重な史料と位置付けられる。

この他には、「懸賞募集町界町名地番整理案輯覽」【F5】の付図にあたる「懸
賞募集町界町名地番整理案輯覽附図」【F24】があり⁹、帝都復興計画における
町界・町名・地番整理案がみられる。

（四）峰山

峰山関連文書の史料点数はVI期：一八点。小林が峰山町助役・町長代理を務
めていたときの史料である。当時の峰山は、丹後震災からの復興が町政の課題
となつていた¹⁰。

史料の内容としては、「これまで存在が知られていなかつた一九二九（昭和四）
年四月から一九三〇（昭和五）年九月までの「峰山町公報」【M1～M14】、
一九二八（昭和三）年から一九三〇（昭和五）年に渡つての震災復興の予算・
決算が含まれる「事務引継書」【M15】があり、丹後震災における復興過程を
中心とした峰山町政全般をみられる史料となつていて。

（五）書簡

書簡の史料点数は、III期：二点、IV期：二点、V期：四七点、VI期：八点、
VII期：期三九点、年代を推定できないもの：三六点。書簡類の形態としては、封
書、葉書、絵葉書、書状、電報等がみられる。これらの書簡類の大半は小林宛

書簡となり、差出人の住所は、京都府（丹波・丹後地域）：五九点、京都府（丹
波・丹後地方を除く）：三三点、全国（京都府を除く）：四〇点と分けられる
（表4）。こゝからは、小林の人間関係の基盤が丹波・丹後地域にあつたことが
確認できる。また、差出人住所が全国（京都府を除く）の書簡が、IV期以降に
増加することは、復興局勤務が小林の交友関係の広がりに影響したことを見
ている。

次に、小林の経歴上注目される書簡について、内容を示す。それは、一九二
三（大正一二）年の湯浅倉平宛の書簡【A16】である。これは、一九二一（大
正一〇）年に郡制が廃止され、郡役所廃止が見通せる状況の中で、当時紀伊郡
書記であつた小林が湯浅倉平に内務省へ職の斡旋を求める内容の書簡である。
湯浅は内務官僚として内務省地方局長、岡山県知事、静岡県知事、内務省警保
局長を歴任し、一九二三（大正一二）年には貴族院議員を務めており、関東大
震災発生直後の九月五日に警視総監に就任、一〇月一八日から帝都復興院参与
も務めた人物である¹¹。また、この書簡には、小林が一九二三（大正二）年に、
大日本産業組合中央会岐阜支会主事から、長崎県の技手に移つた際、湯浅が斡
旋したことも記されている。

（六）写真

写真の史料点数は、V期：二点、VI期：三点、VII期：二点、年代を推定できな
いもの：二〇点。

写真には、小林の青年期から晩年にかけての姿がみられる。大まかな年代は
推定できるが、多くの写真の厳密な年代比定は今後の課題となる。

（七）書籍

書籍の史料点数は、I期：二点、III期：一〇点、IV期：二二点、V期：二二点、
VI期：六点、VII期：二二点、年代を推定できないもの：七点。

書籍の内容としては、大別して小林の役職に関連するものとそれ以外に分け
られ、役職に関連する書籍としては、地方改良講習会の模様を記録した「内務
省書記官田澤義鋪述青年団体の組織經營と指導」【B20】などがみられる。

（八）地図

地図の史料点数は、III期：二点、IV期：二点、V期：二点、VII期：二点、年
代を推定できないもの：二点。

この中には、一九二四（大正一二）年発行の「復興局公認東京市計画地図」

【T9】が含まれる。これは小林の復興局勤務に関連する地図として注目される。

(九) 覚

覚の史料点数は、III期：二点、年代を推定できないもの：四点。この中には小林が天田郡書記を務めていた、一九一九（大正八）年八月に開催された地方改良講習会^{1,2}に参加した記録「第十三回地方改良講習会筆記」【O1～O2】がある。

(一〇) その他

その他の史料点数は、VI期：二点、VII期：二点、年代を推定できないもの：四点。内容としては、小林が日本火災海上保険と火災保険代理店契約を結んだことを示す「火災保険代理店契約証書」【Z3】が含まれている。また、小林が福知山市会議員選挙に出馬したときの「幟旗」【Z9】もみられる。

ここまで示してきた、I期からVII期の区分に従つた分類の検討から「同文書」の概要をまとめると、小林の大日本産業組合中央会京都支会講習会修了から中央での復興局勤務を経て晩年の福知山市会議員までの文書群が含まれており、一地方役人のキャリアパスを考えることができる史料となつていて。また、IV期・V期・VI期の文書は小林が携わった職務に関連して、郡役所行政、復興局行政、峰山町の復興行政の一端を明らかにする貴重な史料として位置付けられる。その他、職務に関連しない書籍、書簡、写真は、小林の交友関係を示すとともに、職務を離れた一個人としての小林の姿を明らかにするものとなつている。

おわりに

「同文書」から小林の経歴をみてみると、彼は大日本産業組合中央会支会主事からキヤリアを開始し、大日本産業組合支会主事、郡書記として日露戦後の地方改良運動を現場で担い、その後内務省復興局等を経て昭和五（一九三〇）年に峰山町助役を退職した。その経験を活かして、帰郷後に下豊富信用販売購買利用組合理事・理事長を務めるなど昭和戦前期の農漁村経済更生運動を地域から支えることになった。これは、明治後期から昭和戦前期の農村政策を地域において一貫して実行した人物として位置付けられる。それとともに、郡役所

から内務省復興局に移り関東大震災の復興事業に関わり、峰山町の丹後震災からの復興にも助役・町長代理として携つた実務者の側面をもつ。このことも復興行政の担い手の経験がどういったものであったかを示す一事例として興味深いものとなつていて。

また、「同文書」については、これまで知られていないかつた関東大震災、丹後震災の復興に関わる史料が含まれていること、明治後期から昭和戦前期にかけての一役人のキャリアを出発点から終着点までみることができ、近代日本の地域社会における国家政策の実行を担う人物の姿が、明確に示されているものであることから、大変貴重な史料群といえる。

最後に、「同文書」の保存、研究について今後の課題を記す。史料群の保存状態は全体的に良いが、「復興局公報」「峰山町公報」などの印刷物の一部に劣化が見られる史料が含まれているため、注意を要する。そして、今後の研究については、「同文書」に含まれる新出の史料をこれまでの研究に加えることにより日本近代史研究に、新たな歴史の姿が提供されることが期待される。

1 目録作成にあたつては、史料上に年代が明記されたもの以外は年代不明として採録したが、復興局関連の史料など、詳細な年代は不明なもの、内容からI期からVII期の分類をすることが可能な史料があるために、年代不明の文書点数が本稿と目録の年代不明の文書点数と一部異なる点があることをあらかじめお断りしておく。

2 小林は、一九三七（昭和一二）年四月二二日の第一回福知山市会議員選挙に当選して以来三回当選している。（福知山市議会史編さん委員会編『福知山市議会60年のあゆみ』福知山市議会、一九九八年）。

3 宮地正人『日露戦後政治史の研究』（東京大学出版会、一九七三年）、一九頁。安在邦夫・大日方純夫・佐藤能丸・須崎慎一・山本悠三『日本の近代―國家と民衆』（梓出版会、一九八四年）、一二七頁。

5 福島幸宏『郡役所の廃止と文書整理』（京都府行政文書を中心とした近代行政文書についての史料学的研究）（科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書／2005年～2007年／研究代表者：小林啓治、二〇〇八年）。
6 大門正克『近代日本と農村社会―農民世界の変容と国家』（日本経済評論社、一九九四年）、三〇四～三〇五頁。

7 内閣府中央防災会議・災害教訓の継承に関する専門調査会編『1923関東

大震災報告書』3、一〇〇九年。

前掲『1923関東大震災報告書』3、二〇〇九年。

この懸賞募集は、帝都復興による区画整理のため、江戸のまちを引き継ぎ乱雑となっていた従来の町界・町名・地番の変更について、最適な方法を検討することを目的として、広く一般から意見を募るために行われた(復興局『懸賞募集町界町名地番整理案輯覽』復興局整地部、一九二五年)。

『京丹後市市史資料編』京丹後市の災害』(京丹後市、一〇一三年)所収のII-5「北丹後地震による峰山町の被害と復興計画」を参照のこと。

¹¹林茂『湯淺倉平』(湯淺倉平伝記刊行会、一九六九年)、四八五頁—五〇四頁。

¹²京都府からは四名が参加しており、小林以外の参加者は、加佐郡長、相楽郡長、京都府属となつてゐる(『官報』一〇一二号、一九一九年八月七日付)。

表1 小林善九郎関係文書史料点数

目録分類	史料点数	%
辞令	71	14.1
行政	30	6
復興局	55	10.9
峰山	18	3.6
書簡	154	30.6
写真	28	5.6
書籍	123	24.4
地図	9	1.8
覚	6	1.2
その他	9	1.8
合計	503	100

表2 小林善九郎関係文書年代別点数

年代	史料点数	%
明治	16	3.1
大正	175	34.8
昭和	187	37.2
年不明	125	24.9

表3 小林善九郎履歴時代区分別資料点数

時代区分	辞令	行政	復興局	峰山	書簡	写真	書籍	覚	地図	その他	合計	%
I(1885~1904)	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4	0.8
II(1904~1908)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
III(1909~1915)	16	2	0	0	2	0	10	0	1	0	31	6.2
IV(1916~1923)	25	15	0	0	22	0	32	3	2	0	99	19.7
V(1924~1928)	12	0	55	0	47	2	32	0	1	0	149	29.6
VI(1928~1930)	5	0	0	18	8	3	6	0	0	2	42	8.3
VII(1931~1946)	12	5	0	0	39	3	33	0	3	2	97	19.3
(年代不明)	0	8	0	0	36	20	7	2	2	5	80	15.9

表4 小林善九郎文書書簡差出住所

差出住所	点数	%
京都府(丹波・丹後地域)	59	38.3
京都府(丹波・丹後地方を除く)	24	15.6
全国(京都府を除く)	40	26
差出人住所不明	22	14.3
小林善九郎差出	5	3.2
その他	4	2.6

IV. 小林善九郎関係文書目録

凡例

一、本目録は、小林善九郎関係文書を、辞令（J）、行政（G）、復興局（F）、峰山（M）、書簡（A）、写真（S）、書籍（B）、地図（T）、覚（O）、そのほか（Z）に分類の上、記録したものである。

二、目録は、前記分類ごとに、文書番号・年月日・文書（書籍）名・差出人（作成者）・宛先・内容・形態・員数・備考（一括状況など）の記録を基本とした。

三、書籍（B）・写真（S）の目録は、記載内容を任意に変更した。また書簡（A）は、整理期間の都合上、内容の記載を行っていない。

四、文書の作成年月を推定したものや原題の見られない文書名は「」を付して表記した。

五、差出人・宛先が複数の場合は、代表的な人物名を数名分記し、ほか何名という表記を行つた。なお差出人の印は（印）と表記し、印の有無を区別できるようにした。

六、差出人・宛先の肩書きや書簡に記された住所等は極力表記したが、宛名の敬称は省略した。

七、形態欄は、豎帳・豎紙・切紙・切続紙・書籍・印刷物などに分類して表記したが、全体の表現統一はできていない。

八、備考には、封筒などの有無、書き込みの有無などについて表記した。

小林善九郎関係資料(辞令)

文書番号	年月日	文書名	差出人／作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
J1	明治41年8月30日	修了書	大日本産業組合中央会頭 男爵 平田東助(印)	小林善九郎	京都支会にて8月24日より7日間開催された産業組合講習会の修了書		1通	
J2	明治42年6月9日	[辞令書]	産業組合中央会岐阜支会	小林善九郎	主事に任命。月俸35円		1通	
J3	明治42年12月24日	[給与通知]	産業組合中央会岐阜支会 内閣總理大臣 正二位 大勲位功三級 侯爵 桂太郎	小林善九郎	事務勉勵に付賞与10円		1通	
J4	明治42年12月28日	[辞令書]	宮内大臣 正二位勲一等 公爵 岩倉具定	小林善九郎	陸軍歩兵軍曹 小林善九郎	陸軍歩兵少尉に任命	1通	
J5	明治43年3月11日	[辞令書]	産業組合中央会頭 会頭 理事 法学博士 男爵 平田東助(印)	小林善九郎	正八位に叙す		1通	
J6	明治43年10月25日	[辞令書]	産業組合中央会岐阜支会 主事 小林善九郎	小林善九郎	明治43年度中岐阜県下開催の産業組合講習会講師を嘱託		1通	
J7	明治43年12月20日	[給与通知]	産業組合会岐阜支会	小林善九郎	事務特別勉勵に付賞与10円		1通	
J8	明治44年2月5日	[辞令書]	帝国在郷軍人会岐阜市分会長 隆軍輸重兵少佐 従六位勲四等 野村豊(印)	岐阜市杉山町 陸軍歩兵少尉 正八位 小林善九郎	本会組長を命ず		1通	
J9	大正元年12月23日	[給与通知]	産業組合中央会岐阜支会	小林善九郎	月俸38円		1通	
J10	大正2年8月11日	[給与通知]	産業組合中央会岐阜支会	小林善九郎	月俸50円		1通	
J11	大正2年8月11日	[辞令書]	産業組合中央会岐阜支会	小林善九郎	願により本職を免ず		1通	
J12	大正2年8月11日	[給与通知]	産業組合中央会岐阜支会	小林善九郎	在職中慰労手当50円		1通	
J13	大正2年8月23日	[辞令書]	産業組合中央会長崎支会(印)	小林善九郎	本会主事に任命。月俸5円		1通	
J14	大正3年12月15日	[給与通知]	長崎県(印)	農業技手 小林善九郎	大正3年中特別の勤労を賞し、27円を支給。		1通	
J15	大正4年4月30日	[給与通知]	長崎県(印)	元長崎県技手 小林善九郎	満1年在官に付25円給与す。		1通	

文書番号	年月日	文書名	差出人／作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
J16	大正4年9月22日	[辞令書]	帝国在郷軍人会總裁 元帥陸軍大將 大勲位 功二級 貞愛親王(印)	正会員予備役陸軍歩兵少 尉 小林善九郎	帝国在郷軍人会下豊富村分会长を 嘱託	1通		
J17	大正4年10月1日	[感謝状]	鹿児島県知事 従四位 勲三等 高岡直吉(印)	長崎県庁 小林善九郎	大正3年1月の桜島噴火の際、罹災 者救恤金48円を施与したことに對する感謝状	1通		
J18	大正5年3月14日	[辞令書]	[京都府庁]	陸軍歩兵少尉 正八位 小 林善九郎	京都府天田郡書記に任命。月俸27 円	1通	「京都府庁」印 あり	
J19	大正5年3月17日	[辞令書]	天田郡長 竹澤徳藏	天田郡書記 小林善九郎	天田郡農業補習学校教科書編纂委 員を嘱託	1通		
J20	大正5年4月6日	[辞令書]	産業組合中央会京都 支会天田郡部会(印)	小林善九郎	本会主事に任命。	1通		
J21	大正6年2月6日	[給与通知]	京都府	京都府天田郡書記 小林 善九郎	給七級俸	1通		
J22	大正6年4月18日	[辞令書]	京都府天田郡役所	天田郡書記 小林善九郎	大正6年4月20日衆議院議員選挙投 票所監視を命ぜ	1通		
J23	大正6年11月3日	[辞令書]	帝国在郷軍人会總裁 元帥陸軍大將 大勲位 功二級 貞愛親王(印)	正会員陸軍歩兵少尉 小 林善九郎	帝国在郷軍人会天田郡聯合分会副 長を嘱託	1通		
J24	大正7年9月10日	[辞令書]	京都府天田郡長 大場 義衛	京都府天田郡書記 小林善 九郎	大正7年9月14日府会議員選挙投票 所監視を命ぜ	1通		
J25	大正8年3月31日	[給与通知]	京都府	京都府天田郡書記 小林 善九郎	給六級俸	1通		
J26	大正8年4月28日	[辞令書]	日本赤十字社京都支 部長 黒淵鏡太郎(印)	小林善九郎	日本赤十字社京都支部天田郡委員 部事務委員を嘱託	1通		
J27	大正8年12月25日	[給与通知]	京都府天田郡役所	天田郡書記 小林善九郎	本年勵賞与37円	1通		
J28	大正9年2月29日	[給与通知]	京都府	京都府天田郡書記 小林 善九郎	給五級俸	1通		
J29	大正9年3月29日	[辞令書]	内閣総理大臣 正三位 勲一等 原敬	陸軍歩兵少尉 正八位 小 林善九郎	陸軍歩兵中尉に任命	1通		

文書番号	年月日	文書名	差出人／作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
J30	大正9年5月5日	〔辞令書〕	京都府天田郡役所	京都府天田郡書記 小林善九郎	大正9年5月10日衆議院議員選挙投票所監視を命ず	大正9年5月10日衆議院議員選挙投票所監視を命ず	1通	
J31	大正9年12月18日	〔給与通知〕	京都府	京都府天田郡書記 小林善九郎	給六級俸	給六級俸	1通	
J32	大正9年12月24日	〔給与通知〕	天田郡長 大場義衛	天田郡書記 小林善九郎	本年中職務勉励につき賞与として年未慰労金52円・国勢調査慰労金48円	本年中職務勉励につき賞与として年未慰労金52円・国勢調査慰労金48円	1通	
J33	大正10年7月1日	第一回国勢調査記念章之証	實業局總裁 正四位勲一等伯爵 児玉秀雄ほか2名(印)	小林善九郎	第一回国勢調査記念章の授与について	第一回国勢調査記念章の授与について	1通	
J34	大正10年12月26日	〔給与通知〕	京都府天田郡役所	天田郡書記 小林善九郎	本年勉勵賞与90円	本年勉勵賞与90円	1通	
J35	大正10年12月26日	〔給与通知〕	京都府	京都府天田郡書記 小林善九郎	月俸83円	月俸83円	1通	
J36	[大正1]1年6月30日	〔給与通知〕	京都府	〔京〕都府天田郡書記 小林善九郎	〔給〕五級俸	〔給〕五級俸	1通	
J37	大正11年7月17日	〔給与通知〕	京都府天田郡役所	天田郡書記 小林善九郎	中元賞与16円	中元賞与16円	1通	
J38	大正11年12月27日	〔給与通知〕	京都府天田郡役所	天田郡書記 小林善九郎	本年勉勵賞与76円	本年勉勵賞与76円	1通	
J39	大正12年2月28日	〔辞令書〕	〔京都府庁〕	京都府天田郡書記 陸軍歩兵中尉 正八位 小林善九郎	京都府紀伊郡書記に任命。給五級俸	京都府紀伊郡書記に任命。給五級俸	1通	「京都府庁」印あり
J40	大正12年4月10日	〔辞令書〕	日本赤十字社京都支部長 池松時和(印)	小林善九郎	日本赤十字社京都支部天田郡委員部事務委員の嘱託を解く	日本赤十字社京都支部天田郡委員部事務委員の嘱託を解く	1通	
J41	大正12年6月1日	〔辞令書〕	京都府山林会(印)	京都府紀伊郡書記 小林善九郎	本会紀伊郡委員を嘱託	本会紀伊郡委員を嘱託	1通	
J42	大正12年9月 日	〔辞令書〕	京都府紀伊郡役所	京都府紀伊郡書記 小林善九郎	紀伊郡長職務督掌に任命。	紀伊郡長職務督掌に任命。	1通	日付が空欄
J43	大正13年5月29日	〔辞令書〕	〔復興局〕	京都府紀伊郡書記 陸軍歩兵中尉 正八位 小林善九郎	復興局技手兼復興局属に任命。給四級俸	復興局技手兼復興局属に任命。給四級俸	1通	「復興局」印あり
J44	大正13年5月29日	〔辞令書〕	復興局	復興局技手兼復興局属 小林善九郎	整地部勤務を命ず	整地部勤務を命ず	1通	
J45	大正13年5月29日	〔辞令書〕	復興局整地部	復興局技手兼復興局属 小林善九郎	庶務課兼施業課勤務を命ず	庶務課兼施業課勤務を命ず	1通	

文書番号	年月日	文書名	差出人／作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
J46	大正13年9月8日	〔辞令書〕	補償審査会長 星野	小林善九郎	本会書記を嘱託	1通	下部破損、会長名下部不明	
J47	大正13年12月27日	〔辞令書〕	復興局整地部庶務課長	復興局技手兼属 小林善	庶務課勤務を命ぜ	1通		
J48	大正15年5月25日	〔辞令書〕	復興局官房文書課長	復興局技手兼属 小林善	東京第二出張所勤務を命ぜ	1通		
J49	大正15年5月25日	〔辞令書〕	〔復興局〕東京第二出張所庶務課長	技手兼属 小林善九郎	整地課勤務を命ぜ	1通		
J50	昭和2年5月1日	〔辞令書〕	東京市市民講座芳明 会々長 池園哲太郎	小林善九郎	本会幹事に補命	1通		
J51	昭和3年2月13日	〔辞令書〕	復興局長官官房文書 課長(印)	復興局技手 小林善九郎	文官分限令第11条第1項第4号に依り休職を命ず	1通	破損あり	
J52	昭和3年2月13日	〔給与通知〕	復興局長官官房文書 課長(印)	復興局技手 小林善九郎	職務勉励につき特別慰労金743円を給寸	1通		
J53	昭和3年6月15日	〔辞令書〕	東京市役所	事務員 小林善九郎	庶務課兼工事課勤務を命ぜ	1通		
J54	昭和3年7月16日	〔辞令書〕	宮内大臣 従二位勲一 等 木喜徳郎	正八位 小林善九郎	従七位に叙す	1通	「宮内省印」あ	
J55	昭和3年8月25日	選任通知書	峰山町長 太田静男	小林善九郎	本月25日町会の決定により本町有給助役に選任	1通		
J56	昭和3年9月4日	〔給与通知〕	峰山町役場	有給助役 小林善九郎	月俸100円給与	1通		
J57	昭和3年9月8日	〔辞令書〕	東京市役所	東京市事務員 小林善九郎	願により事務員を免す	1通		
J58	昭和4年5月6日	〔辞令書〕	峰山町長 太田静男	助役 小林善九郎	昭和4年5月11日執行本町會議員選舉事務員を命ぜ	1通		
J59	昭和5年8月29日	〔給与通知〕	峰山町役場	助役 小林善九郎	今より月俸110円	1通		
J60	昭和14年3月31日	感謝状	福知山消防連合会会長 地方警視 小林忠太郎(印)	下豊富村消防組頭 小林善九郎	多年に渡り消防組頭として活躍。消防組解組に当たっての感謝状。	1通		
J61	昭和18年4月17日	感謝状	保証責任下豊富信用 販売購買利用組合組 合長 大西藤右エ門	小林善九郎	昭和6年3月理事當選、昭和6年12月以来4期12年間理事長を歴任。今回満期退任に当たっての感謝状。	1通		

文書番号	年月日	文書名	差出人／作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
J62	昭和19年1月6日	感謝状	福知山市長 田中庄太郎(印)	元福知山警防団副団長 小林善九郎	昭和7年以来十一年余警防業務に尽力。退職に当たっての感謝状。	1通		
J63	昭和19年2月26日	感謝状	福知山市農会長 田中庄太郎(印)	小林善九郎	本会のために尽力、農業の発展向上に貢献。解散に当たっての感謝状。	1通		
J64	昭和19年11月 日	感謝状	京都府教育会福知山市天田地方部会長 従六位勲六等 赤穂五作(印)	小林善九郎	本会会員として十余年の教育教化貢献への感謝状	1通		
J65	昭和12年8月8日	当選告知書	福知山市長 高木半兵衛(印)	福知山市字押師 小林善九郎	昭和12年8月8日執行福知山市会議員選挙において市会議員当選につき告知	1通	封筒入	
J66	昭和7年3月18日	卒業証書	京都府立綾部高等女学校長 正六位 山上六郎	京都府平民 小林治野	京都府立綾部高等学校本科課程の卒業証書	1通		
J67	昭和8年9月30日	卒業証書	福知山文化裁縫女学院院長 森井岩藏	小林治野	福知山文化裁縫学院和裁科高等課程の卒業証書	1通		
J68	昭和8年9月30日	卒業証書	福知山文化裁縫女学院院長 森井岩藏	小林治野	福知山文化裁縫学院和裁科第二部の卒業証書	1通		
J69	昭和10年3月23日	卒業証書	京都府天田郡修齊尋常高等小学校長 吉良當雄	小林利定	京都府天田郡修齊尋常高等小学校の卒業証書	1通		
J70	昭和15年3月5日	卒業証書	京都府立福知山中学校長 従五位勲六等森田新三	小林利定	京都府立福知山中学校の卒業証書	1通		
J71	昭和20年9月10日	従軍証明書		小林利定		1通		

小林善九郎関係資料(行政)

文書番号	年月日	文書名	作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
G1	[年月日未詳]	産業組合講話ノ要領			産業組合法発布の経過について 産業組合の必要精神・組合の性質について	墨紙	1通	「大日本産業組合岐阜支会」 墨紙
G2	[年月日未詳]	講話ノ要領			産業組合の必要精神・組合の性質について	墨紙	4枚	「大日本産業組合岐阜支会」 墨紙
G3	大正7年5月15日	京都府天田郡公報 第178号	京都府天田郡役所			印刷物	1部	
G4	[大正]	産業組合一覧			天田郡公報 第284号付録	印刷物	1部	
G5	大正9年11月15日	町村ノ教育問題	細見村長 大槻吉 太郎		赤司普通学務局長講演大要	印刷物	4枚	謄写版印刷
G6	大正12年11月11日	[感謝状]			大正10年9月26日の出水時の活動に対する福知山衛戍司令官への感謝状の下書き。	墨紙	1通	「京都府天田郡役所」 墨紙
G7	[年月日未詳]	處務ノ整否			記入無し	墨紙	1通	「京都府天田郡役所」 墨紙
G8	[年月日未詳]	金櫃検査状況			記入無し	墨紙	1通	「京都府天田郡役所」 墨紙
G9	[年月日未詳]	未収入金			記入無し	墨紙	1通	「京都府天田郡役所」 墨紙
G10	[年月日未詳]	[行政文書綴]			町村長会指示、国勢調査に關スル件、 郡役所主催調査員訓練会計画要領	印刷物	1綴	謄写版印刷
G11	[年月日未詳]	招集徵發事務検閲日割予定表 図				印刷物	1通	
G12	[年月日未詳]	天田郡漁業会事務所改造仕様				印刷物	1冊	
G13	大正12年4月1日	[復命書]	紀伊郡書記小林善 九郎		千葉・茨城・栃木・岐阜視察の復命書。 稻作司地立毛共進会規程(岐阜県)、機 械農耕規程(茨城県)、大正十年度 必行事項(茨城県東茨城郡)、大正十二 年度必行事項(同左)を綴る	墨紙	1冊	
G14	大正12年8月	陳情書			紀伊郡六ヶ村長連名の水害対策につ いての陳情書案	墨紙	1通	「京都府紀伊郡役所」 墨紙
G15	大正12年8月22日	陳情書			水害対策についての陳情書案	墨紙	1通	「京都府紀伊郡役所」 墨紙
G16	大正12年8月22日	陳情書			紀伊郡六ヶ村長連名の水害対策につ いての陳情書	印刷物	1通	ガリ版印刷

文書番号	年月日	文書名	作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
G17	大正13年3月1日	町村御監督上之義ニ付申請	伏見町會議員越山元之介(印)	伏見町會議員越山元之介(印)	大正12年の伏見町決算書町会未提出の件について、伏見町長への催告書の写しを添え、郡に監督を求める申請	印刷物	1枚	
G18	昭和10年5月	下豊富村經濟更生計画樹立要項	下豊富村	京都府内政部長		印刷物	1冊	
G19	昭和19年3月	〔貯蓄推進運動推進依頼書〕	野間正秋	小林	生命保険代理店各位へ	印刷物	1通	
G20	昭和19年6月6日	領収書	福知山市役所	押師町内会長	西中ノ町火災見舞金領収書	印刷物	1通	
G21	[年月日未詳]	国民登録指導員及同調査員の方々へ			昭和20年5月1日の国民登録	印刷物	1通	
G22	昭和20年11月29日	〔市議会議案〕	福知山市會議員森本文衛ほか27名		「議第二二号」、「主食三合配給即時断行ニ關スル意見書提出ノ件」、「議第三二号」、「市政改正ニ關スル意見書」	印刷物	1枚	
G23	[年月日未詳]	訓示			農業振興闘連訓示	印刷物	1通	謄写版印刷
G24	[年月日未詳]	〔千葉県町村文書受理一覧表〕			記入無し	印刷物	1通	
G25	[年月日未詳]	町村會議員選舉事務視察要項				印刷物	1級	謄写版印刷
G26	[年月日未詳]	総会ニ關スル講話の要領				印刷物	1通	
G27	[年月日未詳]	修養団員氏名(天田郡支部)				印刷物	1通	
G28	[年月日未詳]	選舉の心得	内務省			印刷物	1通	
G29	[年月日未詳]	農家建築参考図				印刷物	1通	
G30	[年月日未詳]	日本赤十字社令 社定款 赤十字記章等ニ關スル法令及規程 有功章社員章条例 日本赤十字社 日本赤十字社員心得				印刷物	1通	

小林善九郎関係資料(復興局)

文書番号	年月日	文書名	作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
F1	[年月日未詳]	特別都市計画委員会議事速記録 第四號	復興局			印刷物	1冊	表紙に「秘」印刷、「小林」朱印
F2	[年月日未詳]	特別都市計画委員会議事速記録 第五號	復興局			印刷物	1冊	表紙に「小林」朱印
F3	[年月日未詳]	特別都市計画委員会議事速記録 第六號	復興局			印刷物	1冊	表紙に「小林」朱印
F4	[年月日未詳]	特別都市計画委員会議事速記録 第七號	復興局			印刷物	1冊	表紙に「小林」朱印
F5	大正14年4月	懸賞募集町界町名地番整理案輯 覽	復興局			印刷物	1冊	
F6	[年月日未詳]	復興建築叢書十六號 都市計画 小話 復興局技師玉置豊次郎述	復興局建築部			印刷物	1冊	
F7	[大正13年9月]	復興局調査彙報第六號 公園及 休養娛樂施設論	復興局長官房 計画課		ハーバード大ウイリアムズ ンネットコソローの著書より 一部訳	印刷物	1冊	
F8	大正13年8月	復興局土木部長太田圓三述 帝 都復興事業に就て	復興局土木局 シ ビル社納		7月2日土木学会講演	印刷物	1冊	表紙に「小林」朱印
F9	大正14年1月	復興事業年度割一覽	復興局			印刷物	1冊	
F10	[大正14年12月末 日]	復興事業進捗状況	復興局		昭和元年12月末日現在	印刷物	1冊	表紙に「小林」鉛筆書、「小林」朱印
F11	[年月日未詳]	東京都市計画の基本問題 住居、 商業及工業地域 復興局書記官 武部六藏述 復興建築叢書第拾 貳號	復興局建築部			印刷物	1冊	
F12	[昭和元年12月末 日]	復興事業進捗状況	復興局		大正14年12月末日現在	印刷物	1冊	表紙に「小林」朱印
F13	大正13年5月	吉田東京市助役伊部復興局技師 財団法人東京市 政調査会 述 帝都土地区画整理に就て 第 二輯				印刷物	1冊	

文書番号	年月日	文書名	作者	宛先	内容	形態	員数	備考
F14	[年月日未詳]	整地部所属管事項議会説明参考書	小林属		復興局整地部所属管事項予算の議会説明のための参考書	堅帳	1冊	本文の大部分は謄写版印刷、書込あり
F15	[年月日未詳]	参考雑報	小林			堅帳	1冊	本文の大半分は謄写版印刷、書込あり
F16	[年月日未詳]	各地区懸案事項			土地地区画整理第一地区から第六六地区までの懸案事項	堅帳	1冊	「復興局」署紙、「1」～「66」付箋あり
F17	[年月日未詳]	整地部所管予算説明参考書			帝都復興事業費東京ノ部(大正12年度～17年度)他	堅帳	1冊	
F18	[年月日未詳]	整地部所管長官答弁資料			区画整理ノ進捗状況、15年度ニ於ケル区画整理事業進捗予想、区画整理制度改善ニ關スル件他	堅帳	1冊	
F19	大正13年3月	帝都復興院事務経過	復興局			印刷物	1冊	表紙に「秘」印刷、「小林」朱印
F20	[年月日未詳]	例規集			土地地区画整理關係例規	印刷物	1冊	表紙に「小林」朱印
F21	大正13年5月	復興局公報 其一	小林		自大正13年5月～至15年5月	印刷物	1冊	第21号～第126号(号欠落あり)
F22	大正15年5月	復興局公報 其二	小林		自大正15年5月～至昭和3年	印刷物	1冊	第126号～157号/(昭和)2号～60号(特に後半に号欠落あり)
F23	[年月日未詳]	事務引継書			課長事務引継要項(昭和2年4月1日現在)	堅帳	1冊	地図同封、表紙に「小九一〇」書込
F24	[年月日未詳]	懸賞募集中界町名地番整理案図 覽附図			整理案10枚	印刷物	1冊	
F25	[年月日未詳]	復興事業關係例規集	復興局			印刷物	1冊	後半部欠落
F26	[大正13年7月3日]	[文書雑型]			提出文書式	印刷物	1綴	謄写版印刷
F27	[大正14年8月31日]	移転命令並決定補償金調			大正14年8月31日現在	印刷物	1通	「秘」朱印、「訂正」鉛筆書あり、謄写版印刷

文書番号	年月日	文書名	作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
F28	[年月日未詳]	第五十四土地区画整理ノ方法改善ニ関スル建議案		作間耕造外八名		印刷物	1綴	謄写版印刷、破損著しい
F29	大正14年3月27日	特別計画区域内ニ於ケル寺院ノ国有境内地譲与等ニ関スル法律				印刷物	1綴	謄写版印刷、破損著しい
F30	[年月日未詳]	所長事務引継書			整地課			書込あり、タイプライター、「復興局東京第一出張所」署紙
F31	[年月日未詳]	所長事務引継書			整地課			タイプライター、「復興局東京第二出張所」署紙
F32	昭和2年6月	第一出張所管内地区及地区主任調書				印刷物	1綴	タイプライター
F33	[年月日未詳]	第六地区整理前後地目別面積調書				印刷物	2部	タイプライター
F34	昭和2年3月11日	仮設建築物ノ構造取締ニ関スル件	鈴木保安部長	各警察署長殿宛	印刷物	1通		書込あり、タイプライター
F35	[年月日未詳] 〔〕	区画整理完了地の地代改定に就			印刷物	1通		書込版印刷
F36	大正15年10月15日	大正十五年法律第五十二號特別都市計画法第五條ノ土地区画整理ニ伴フ清算金及補償金ニ関スル法律並同施行規則適用ニ関スル件	復興局長官堀切善次郎	第二出張所長茂庭忠次郎 殿宛	印刷物	1綴		書込版印刷
F37	大正15年6月15日	借地法ノ適用ニ關スル件	復興局整地部長		東京第二出張所長殿宛	印刷物	1綴	書込版印刷
F38	[年月日未詳]	従前ノ土地調査整理方針(案)			印刷物	1綴		書込版印刷、書込あり
F39	[年月日未詳]	懸案事項			第二地区 1.飯田町3丁目 暁星中学校寄宿舎関係地 域道路変更ノ件他	印刷物	1綴	書込版印刷
F40	昭和2年9月20日	仮設建築物ノ高取締ニ關スル件	保安部長	各警察署長殿宛	印刷物	1通		書込版印刷
F41	[年月日未詳]	[文書綴]			第六区建物其ノ他工作物 移転ニ因ル補償金調、移 転命令書他3件	印刷物	1綴	書込版印刷、「秘」の朱印あり

文書番号	年月日	文書名	作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
F42	[年月日未詳]	[文書綴]				印刷物	1綴	謄写版印刷
F43	[年月日未詳]	土地及建物登記ノ件				印刷物	1綴	謄写版印刷
F44	[年月日未詳]	補償審査委員席次表				印刷物	1通	謄写版印刷
F45	大正15年6月19日	土地区画整理委員会附議スヘ キ換地清算案稟議二関スル件		復興局整地部長	東京第二出張所長	印刷物	1綴	謄写版印刷、紫スタンプ「写」
F46	大正15年10月15日	大正十五年法律第五十二號特別 都市計画法第五條ノ土地区画整 理ニ伴フ清算金及補償金ニ關ス ル法律並同施行規則適用ニ關ス ル件	復興局長官堀切 善次郎	復興局長官堀切 善次郎	印刷物	1通	タイプライター、「写」印字、「復興局 第二出張所」墨紙	
F47	大正15年8月	補償金及清算金ノ話	復興局東京第二 出張所整地課述			印刷物	1綴	謄写版印刷
F48	[年月日未詳]	整地前土地面積算定法				印刷物	1綴	謄写版印刷
F49	大正13年9月20日	住所録			総理大臣・内閣書記官長・ 法制局長官・各大臣・次 官・参与官・秘書官・警視 総監の住所録	印刷物	1綴	謄写版印刷
F50	大正15年6月	第二回市民講座男子部会員名簿				印刷物	1綴	謄写版印刷
F51	大正13年7月23日	地方高等官一覧表				印刷物	1通	活版印刷
F52	[年月日未詳]	[小林善九郎経歴]			前半部分脱落	印刷物	1通	タイプライター
F53	[年月日未詳]	[土地調査二付]				印刷物	1綴	謄写版印刷
F54	[年月日未詳]	[断簡]		復興局関連		印刷物	1通	謄写版印刷
F55	[年月日未詳]	[名刺]		東京市助役廣瀬久忠・復 興局事務官三輪義明・復 興局技手新井武雄	名刺	3枚		

小林善九郎関係資料(峰山)

文書番号	年月日	文書名	作成者	宛先	内容	形態	員数	備考
M1	昭和4年4月25日	峰山町公報 第1号		峰山町役場		印刷物	1部	右下に「小林」ペン書きあり
M2	昭和4年5月25日	峰山町公報 第2号		峰山町役場		印刷物	1部	
M3	昭和4年6月25日	峰山町公報 第3号		峰山町役場		印刷物	1部	
M4	昭和4年7月25日	峰山町公報 第4号		峰山町役場		印刷物	1部	
M5	昭和4年8月25日	峰山町公報 第5号		峰山町役場		印刷物	1部	
M6	昭和4年9月25日	峰山町公報 第6号		峰山町役場		印刷物	1部	
M7	昭和4年10月25日	峰山町公報 第7号		峰山町役場		印刷物	2部	
M8	昭和4年11月25日	峰山町公報 第8号		峰山町役場		印刷物	1部	
M9	昭和4年12月25日	峰山町公報 第9号		峰山町役場		印刷物	2部	
M10	昭和5年1月25日	峰山町公報 第10号		峰山町役場		印刷物	1部	
M11	昭和5年3月25日	峰山町公報 第11号		峰山町役場		印刷物	1部	
M12	昭和5年5月25日	峰山町公報 第12号		峰山町役場		印刷物	2部	
M13	昭和5年7月25日	峰山町公報 第13号		峰山町役場		印刷物	2部	
M14	昭和5年9月20日	峰山町公報 第14号		峰山町役場		印刷物	1部	
M15	昭和4年12月	事務引継書類	小林助役		昭和4年12月と昭和5年9月の事務引継書類の綴り	豎帳	1冊	裏表紙に「小林善九郎」ペン書き
M16	[年月日未詳]	[祝辞等級]			祝辞等の下書き	墨紙	1級	「京都府中郡峰山町役場」墨紙
M17	[年月日未詳]	祝辞			中郡聯合青年団総会開催にあたっての祝辞の下書き	墨紙	1通	「京都府中郡峰山町役場」墨紙
M18	[年月日未詳]	式辞	峰山町長代理 従七位 小林善九郎		峰山町立小学校及び実科建築工事完成式典式辞の下書き	墨紙	1通	「京都府中郡峰山町役場」墨紙

小林善九郎関係資料(書簡)

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A1	大正4年4月17日	[書簡]	共福会長岩井敬太郎	会員小林善九郎	切紙	1通	
A2	大正11年元旦	[書簡] 〔書簡〕	東京京橋区杉屋町二ノ六 上前喜一 東京本郷区曙町十三番地ノ三号 有働良夫	京都府天田郡役所 小林善九郎	葉書	1通	
A3	大正11年8月31日	[利息金請 求書]	[株式会社竹田銀行]	小林善九郎	罰紙	1通	「株式会社竹田銀行」罰紙
A4	[大正12年]3月1日	[書簡]	京都府 何鹿郡畜産組合 村上義信	天田郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は封筒より
A5	[大正12年]2月28日	[書簡]	京都市 上京区塔ノ上 今川退三	天田郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は封筒より
A6	[大正12年]3月1日	[書簡]	京寺町今出川上西 岩城赳夫	天田郡役所(福知山町) 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は封筒より
A7	[大正12年]3月3日	[書簡]	天田郡役所 大■義和	京都府紀伊郡役所 児玉利節	切続紙	1通	封筒入、作成年は封筒より
A8	大正12年3月6日	[書簡]	丹波長田野 赤羽隆	府下紀伊郡役所 小林善九郎	葉書	1通	年月日は消印より
A9	大正12年3月15日	[郡長着任 挨拶]	京都府久美浜町 松村同	紀伊郡役所 小林善九郎	葉書	1通	封筒入、作成日は消印より
A10	[大正12年]3月6日	[書簡]	天田郡細見村 谷垣誠治	京都府紀伊郡役所 小林善九郎	切紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A11	[大正12年]3月6日	[書簡]	天田郡菟原村 井上正義	京都府紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A12	[大正12年3月]6日	[書簡]	天田郡雀部村 松山哉三	京都府紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年月は消印より
A13	大正12年3月9日	[書簡]	京都府福知山町字猪崎 片山純一	府下紀伊郡伏見町 紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A14	大正12年3月28日	[書簡]	天田郡役所 伊東甚左衛門	紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A15	[大正12年]3月17日	[書簡]	京都府天田郡下豊富村 和久忠兵衛	京都府紀伊郡役所 小林善九郎	切紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A16	大正12年3月 日	[書簡]	京都府天田郡下豊富村字押師 小林善九郎	湯浅閣下	切続紙	1通	
A17	[大正12年]4月5日	[書簡]	網野町 葛根岩藏	京都府紀伊郡役所 小林善九郎	罰紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A18	[大正12年]5月21日	[書簡]	岐阜市竭諸町一三六 加藤гин	伏見紀伊郡役処(ママ) 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A19	[大正12年10月11日]	[書簡]	天田郡上豊富村 藤原弥一	紀伊郡伏見町 御堂前植原スエ方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年月日は消印より
A20	大正12年10月15日	[書簡]	京都市室町通中立売上ル 和田不二男	紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A21	[大正12年]10月16日	[書簡]	天田郡 伊東甚左衛門	京都府紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は消印より

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A22	[大正12年]12月24日	[書簡]	天田郡役所 和田栄一	紀伊郡伏見町郡役所 小林善九郎	罫紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A23	[大正13年5月24日]	[書簡]	阿鹿郡中筋村高津 大槻新三郎	伏見町御堂前植原すゑ殿方 小林善九郎	切続紙	1通	印より
A24	[大正13年]6月3日	[書簡]	京都府天田郡下豊富村拝師福聚寺 岩本光禪	東京市神田区南甲賀町一七 八幡館 館方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年月日は封筒・消印入り
A25	[大正13年]6月16日	[書簡]	京都市外伏見桃山 根本元二郎	東京市神田区南甲賀町一八 八幡館 小林善九郎	罫紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A26	[大正13年]6月18日	[書簡]	京都府天田郡下川口村 相村善治	東京市神田区南甲賀町一八 八幡館内 小林善九郎	罫書	1通	作成年は消印より
A27	[大正13年]6月21日	[書簡]	小林久一郎	東京市神田区南甲賀町一八 八幡旅館方 小林善九郎	切続紙	1通	「京都市万壽寺通烏丸西入 合資会社角久用紙店」封筒入、作成年は消印より
A28	大正13年6月22日	[書簡]	京都府天田郡金谷村 塙見喜市	東京市神田区甲賀町十七 八幡館方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A29	[大正13年]7月4日	[書簡]	天田郡役所 和田栄一	東京市復興局土地整理部庶務課 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A30	[大正13年]7月13日	[書簡]	小林久一郎	東京市麹町区四番町一番地光洋館 方 小林善九郎	切続紙	1通	「京都市万壽寺通烏丸西入 合資会社角久用紙店」封筒入、作成年は消印より
A31	大正13年7月25日	[書簡]	塙見喜市	東京市内務省外局復興局整地部 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A32	[大正13年]9月7日	[書簡]	京都府天田郡拝師 小林ゆき	東京麹町区四番地ノ一一番地 光洋館 方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、消印は「13.9.23」
A33	[大正13年10月1日]	[書簡]	京都府天田郡拝師 小林ゆき	東京麹町区四番地ノ一番地 光洋館 方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年月日は消印より
A34	大正13年10月15日	[書簡]	京都府天田郡拝師 小林ゆき	東京麹町区四番地の一番地 光洋館 方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年は消印より、詩文を書いた罫紙同封
A35	[大正13年12月]24日	[書簡]	天田郡拝師 小林ゆき	東京麹町区四番町ノ一番地 光洋館 方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、作成年月は消印より
A36	大正14年1月元旦	[年賀状]	神戸市平野矢部町一六四 兵庫県庁内務□ 榎田由平	東京市復興局整地部 小林善九郎	葉書	1通	
A37	大正14年1月元旦	[年賀状]	京都市外伏見町桃山 敬禮寺信三	東京麹町区四番町一椿沢方	葉書	1通	
A38	[大正14年1月14日]	[書簡]	京都府天田郡拝師 小林ゆき	東京麹町区四番町ノ一 光洋館方 小林善九郎	罫紙	1通	封筒入、作成年月日は消印より、9月20日付書簡1通を同封

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A39	[大正14年]3月16日	[書簡]	小林久一郎	東京市麹町区四番町一番地 光洋館方 小林善九郎	切紙	1通	「京都市万壽寺通烏丸西入 合資会社角久用紙店」封筒入、作成年は消印より
A40	[昭和2年2月]12日	[書簡]	金沢市役所 I. TOJI	東京市神田区三崎町復興局出張所 小林善九郎	絵葉書	1通	「大雪の金沢市街 昭和二年一月」絵葉書、作成年月は消印より
A41	[昭和2年4月1日]	[電報]		三バンテウ五六 ホリメジロウ方 ヲ バヤンセンクロ	電報用紙	1通	作成年月日は消印より
A42	昭和2年8月1日	[暑中見舞]	京都市上京区紫野御所田町三〇 今川退三	東京市麹町区三番町五六 堀留次郎様方 小林善九郎	葉書	1通	
A43	[昭和3年]1月23日	[書簡]	同市碑文谷碑文谷百十一 参田定規	東京市麹町区參番町五六 堀留次郎様方 小林善九郎	葉書	1通	作成年は消印より
A44	昭和3年2月16日	[普通選舉通知]	麹町区元平河町一〇 社団法人麹町区民会選舉事務所 東京市麹町区三番町六十九番地 自宅 東京市麹町区三番町十番地	麹町区三番町五六 堀留方 小林善九郎	葉書	1通	作成日は消印より
A45	昭和3年2月	[立候補挨拶]	選舉事務所 東京市麹町区三番町六十九番地 自宅 東京市麹町区三番町十番地	麹町区三番町五六 堀留方 小林善九郎	印刷物	1通	封筒入、「選舉」朱印
A46	昭和3年2月	[立候補挨拶]	選舉事務所 東京市麹町区三番町十番地 猪尾順藏	麹町区三番町五六 堀留方 小林善九郎	印刷物	1通	封筒入、名刺同封
A47	昭和3年2月	[立候補挨拶]	東京市四谷区花園町十番地 瀬川光行	麹町区三番町五六 堀留方 小林善九郎	印刷物	1通	封筒入、「立候補宣言」小冊子
A48	昭和3年2月	[立候補挨拶]	麹町区平河町五ノ二 東京府第一区衆議院議員候補者 鈴木梅四郎	麹町区三番町五六 堀留二郎様方 小林善九郎	印刷物	1通	封筒入、「立候補宣言」小冊子
A49	昭和3年2月	[立候補挨拶]	麹町区内藤町一一番地 衆議院議員候補者 本田義成	麹町区三番町五六 堀留二郎様方 小林善九郎	印刷物	1通	封筒入、「立候補宣言」小冊子
A50	昭和3年2月	[立候補挨拶]	麹町区内藤町一一番地 衆議院議員候補者 本田義成	麹町区三番町五六 堀留二郎様方 小林善九郎	印刷物	1通	封筒入、「立候補宣言」小冊子
A51	[昭和3年]3月24日	[書簡]	長崎市今博多町二十八 藤野繁	東京市麹町区三番町五六 堀留方 小林善九郎	葉書	1通	作成年は消印より、長崎県南高来郡加津佐村信用組合
A52	[昭和3年]5月1日	[書簡]	京都府天田郡中夜久野村 日山林三郎	東京市麹町区三番町五六 堀留二郎様方 小林善九郎	葉書	1通	作成年は消印より、長崎県南高来郡加津佐村信用組合
A53	[昭和3年]10月9日	[書簡]	京都府天田郡押師 小林ゆき	東京市麹町区三番町五六 堀留二郎様方 小林善九郎	切紙	1通	封筒入、消印は「3.5.11」、作成年は消印より
A54	昭和3年6月20日	[書簡]	京都府■■町三ノ九 中島■三郎	東京市麹町区三番町六八 第二福四万館 小林善九郎	墨紙	1通	封筒入
A55	[昭和3年]6月21日	[書簡]	京都市上京区北小堀池町二九 安藤芳造	東京市麹町区三番町六八 第二福四万館 小林善九郎	切統紙	1通	封筒入、作成年は消印より

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A56	[昭和3年]6月27日	[書簡]	京都府天田郡中夜久野村 田山林三郎	東京市麹町区三番町六八 第二福四万旅館方 小林善九郎	郵紙	1通	封筒入、作成年は消印より
A57	昭和3年9月23日	[書簡]	福知山町天田郡農会 塩見一男	丹後峯山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A58	昭和4年1月元旦	[年賀状]	京都府中郡五箇村長 後藤佳重郎	中郡峯山町 小林善九郎	葉書	1通	
A59	昭和4年1月1日	[年賀状]	東京滝ノ川町上中里一五一 佐々木弥十郎	京都府中郡峰山町役場内 小林善九郎	葉書	1通	
A60	昭和4年1月元旦	[年賀状]	宮津町 三宅作造	中郡峯山町 小林善九郎	葉書	1通	
A61	昭和4年1月元旦	[年賀状]	京都市室町頭小山上総町七二ノ八 岡本定太郎 勤務先京都府庁農務課	中郡峯山町 小林善九郎	葉書	1通	
A62	昭和4年1月元旦	[年賀状]	東京市外矢口町蓮沼八八 森久市	京都府中郡峰山町吉原七四ノ一 小林善九郎	葉書	1通	
A63	昭和4年1月元旦	[年賀状]	京都府天田郡川合村 小原正志	京都府中郡峯山町 小林善九郎	葉書	1通	
A64	昭和4年1月元旦	[年賀状]	東京府荏原郡松澤村松原六八〇番地 松野五生	京都府中郡峯山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A65	昭和4年1月1日	[年賀状]	東京市外西巣鴨池袋三家二ノ三六九 吉田英藏		葉書	1通	
A66	昭和4年1月元旦	[年賀状]	東京市牛込区市ヶ谷富久町一〇九 上床三次郎	丹後峰山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A67	昭和4年1月元旦	[年賀状]	伏見桃山簡井伊賀 福山勘助	中郡峯山町 小林善九郎	葉書	1通	
A68	昭和4年4月〔22日〕	[書簡]	住宅 東京渋谷町同潤会アパート二二ノ一二七(省線渋谷駅又ハエビス駅下車)長田法律事務所内 弁護士蘆原常一	京都府丹後峰山町助役 小林善九郎	葉書	1通	作成日は消印より
A69	昭和4年〔7月23日〕	[暑中見舞]	東京市浅草区本吉町十五番地 平野工務店 平野千代藏	京都府峰山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A70	昭和4年8月3日	[暑中見舞]	京都帝国大学医学部耳鼻咽喉科教室 荏原四郎	京都府中郡峯山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A71	昭和4年8月〔6日〕	[書簡]	京都市一条 養蚕学校東隣 夜久臥崎	府下峰山町 小林善九郎	葉書	1通	作成日は消印より
A72	昭和5年1月元旦	[年賀状]	東京府下大井町出石五一一九 仲野介勤務 復興局長官官房	京都府丹後峰山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A73	昭和5年1月元旦	[年賀状]	下京区八條四ツ塚町 中村國太郎 勤先	中郡峯山町役場内 小林善九郎	葉書	1通	
A74	昭和5年1月1日	[年賀状]	京都市相国寺北門前上ノ町 戸祭乘泰勤先 京都府内務部地方課	京都府峰山町 小林善九郎	葉書	1通	

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A75	昭和5年1月1日	[年賀状]	京都府綾喜郡田邊町 西川庄三郎	中郡峯山町 小林善九郎	葉書	1通	
A76	昭和5年1月元旦	[年賀状]	天田郡小川々村校 牧榮太郎	京都府中郡峰山町役場 小林善九郎	葉書	1通	
A77	昭和5年4月11日	[挨拶状]	船井郡世木尋常高等小学校長 濱谷清明	東京市小石川区高田老松町二八 向井昌治ほか	葉書	1通	
A78	[昭和5年9月8日]	[書簡]	菟原村 長樋參次	天田郡下豊富村 小林善九郎	絵葉書	1通	作成年月日は消印より、「菟原村信用組合及倉庫」絵葉書
A79	[昭和5年11月19日]	[書簡]	東京丸ノ内復興局事務局管理課 森久市	京都府天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	作成年月日は消印より
A80	昭和6年1月元旦	[年賀状]	京都府中郡峯山町 小林善九郎	東京市小石川区高田老松町二八 向井昌治ほか	葉書	11通	宛名間違い
A81	昭和6年元旦	[年賀状]	京都府与謝郡岩瀬町 糸井品藏	京都府天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A82	[昭和6年]元旦	[年賀状]	京都府左京区下鴨北園町 谷工業事務所 谷直一	丹後中郡峰山町 小林善九郎	葉書	1通	集配局「京都府天田郡下豊富村 拜師 小林善九郎」貼付、作成年は消印より
A83	昭和6年1月元旦	[年賀状]	京都府上京区紫野門前町龍ヶ坪 福田増 藏	丹後中郡峰山町 小林善九郎	葉書	1通	集配局貼紙「天田郡下豊富村 拜師ニ転居ス」貼付
A84	昭和6年1月1日	[年賀状]	京都府福知山町内記町 弁護士森本丈衛	天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A85	辛未元旦	[年賀状]	大槻高藏	下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A86	昭和6年元旦	[年賀状]	日本火災保険株式会社京都支店 支店長 奥本佐七 伊藤信道	府下天田郡下豊富村拜師 小林善九郎	葉書	1通	
A87	昭和辛未元旦	[年賀状]	郷社天照玉命神社社司 京都府神職会天 田郡支部長 陸軍少将従四位勲三等 山口鹿太郎	天田郡下豊富村拜師 小林善九郎	葉書	1通	
A88	[昭和6年]元旦	[年賀状]	京都府加佐郡中筋村 衆議院議員水島彦 一郎	中郡峰山町小林善九郎	葉書	1通	(集配局貼紙「京都府天田郡下 豊富村拜師 小林善九郎」貼付、作成年は消印より)
A89	[昭和6年]1月元旦	[年賀状]	野中久吉 住所 京都府竹野郡間人町字清 水 勤務先 京都府竹野郡間人町役場土木係 京都府中郡峰山町役場土木係	天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	作成年は消印より
A90	昭和6年1月1日	[年賀状]	京都府河鹿郡山家村 西村直衛	天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A91	昭和6年元旦	[年賀状]	内田鼎三 岡山県御津郡福浜村大字福島尋常高等小学校勤先 京都府中郡峯山町実科高等女学校	京都府天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A92	昭和6年元旦	[年賀状]	東京市外西巣鷗宮仲二二一八 吉田茂	京都府峯山町 小林善九郎	葉書	1通	集配局貼紙「京都府天田郡下豊富村字拜師 小林善九郎」貼付
A93	[昭和6年]1月元旦	[年賀状]	福知山堀 赤根丑藏	天田郡下豊富村拜師 小林善九郎	葉書	1通	作成年は消印より
A94	[昭和6年]元旦	[年賀状]	伊藤ハル	天田郡下豊富村拜師 小林富美	葉書	1通	作成年は消印より
A95	昭和6年1月1日	[年賀状]	京都府福知山字岡 須原純太郎	下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A96	昭和6年1月1日	[年賀状]	京都市外上鳥羽村 田中祐四郎	天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A97	昭和6年1月1日	[年賀状]	金谷村 塙見喜市	天田郡下豊富村拜師 小林善九郎	葉書	1通	
A98	昭和6年1月1日	[年賀状]	表具師日下部寿光堂 福知山	下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A99	[昭和6年]1月元旦	[年賀状]	竹部喜美子	天田郡下豊富字拜師 小林治野	葉書	1通	作成年は消印より
A100	昭和6年1月元旦	[年賀状]	東京府下上荻窪三三二 戸島貞治	下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A101	昭和6年1月1日	[年賀状]	東京市小石川区原町一二〇 三樹樹三	京都府天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A102	[昭和6年]元旦	[年賀状]	福知山町 中島弥三郎	京都府天田郡下豊富村拜師 小林善九郎	葉書	1通	
A103	昭和6年1月元旦	[年賀状]	丹後峰山町 太田静男	天田郡■■■村字賀■■	葉書	1通	
A104	昭和6年1月元旦	[年賀状]	麹町区三番町五六 堀留次郎	福知山附近下崎 小林善九郎	葉書	1通	
A105	[昭和6年]1月元旦	[年賀状]	京都府中郡五箇村五箇 後藤佳重郎	天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A106	昭和6年8月1日	[異動挨拶]	吉川郁羊	天田郡下豊富村 小林善九郎	葉書	1通	
A107	昭和7年1月元旦	[年賀状]	東京渋谷町八幡通三丁目十五番地 (同潤會アパート二二二七) 弁護士弁理士 廬原常一	京都府中郡峰山町 小林善九郎	葉書	1通	集配局貼紙「天田郡下豊富村 二」貼付
A108	[昭和9年]元旦	[年賀状]	福知山町 南田勝二郎	天田郡下豊富村字林 小林善九郎	葉書	1通	作成年は消印より

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A109	[昭和10年]1月元旦	[年賀状]	住所 神戸市灘区天城通二丁目一四 勤先兵庫県立第一神戸中學校 芹田友三 良郎	京都府天田郡下豊富村拜師 小林 善九郎	葉書	1通	作成年月日は消印より
A110	[昭和18年9月20日]	[書簡]	大阪府住吉区鷹合町三二〇 黒風寮 小 林清信	京都府福知山市拜師 小林善九郎	葉書	1通	作成年月日は消印より
A111	昭和19年4月15日	[退職挨拶]	島根縣周吉郡東郷村大字大久 森久市	京都府福知山市(元下豊富村)小林 善九郎	葉書	1通	
A112	[年末詳]12月30日	[書簡]	京都市中京区三條通竪町角桟屋町 日本 火災保険會社京都支店	府下天田郡上豊富村字拜師 小林 善九郎	葉書	1通	
A113	[年末詳]1月元旦	[年賀状]	京都市萬壽寺通烏丸西入 三菱製紙株式 會社制品特約販買 合資會社角久洋紙店	府下天田郡下豊富村字拜師 小林 善九郎 外御一同	葉書	1通	
A114	[年末詳]1月1日	[年賀状]	横浜市中区相生町 加藤内 一ノ廿一 小林幸子	京都府下天田郡拜師 小林善九郎	葉書	1通	
A115	[年末詳]1月2日	[挨拶状]	千駄ヶ谷原宿一二九米田子爵方 復興局 町宿直文書係主任 枝木興麿	京都府丹後峰山町役場 小林善九 郎	名刺	1通	封筒入、作成月日は消印より
A116	[年末詳]2月28日	[書簡]	東京市小石川区白山川抜町一一〇 熊野 英	京都府福知山市拜師 小林善九郎	絵葉書	1通	「日和山公園と高杉晋作の像 昭和十五年十一月卅日下関要 塞司令部許可済」絵葉書
A117	[年末詳]3月18日	[書簡]	■ ■ ■	三生老大師	切継紙	1通	
A118	[年末詳]4月1日	[書簡]	京都市下鴨中川原町五一 行永熏	福知山市拜師 小林善九郎	葉紙	1通	封筒入
A119	[明治41年]5月21日	[封筒]	京都東山健仁僧堂	[筑後]國久留米市梅林寺 三生老 大師	封筒	1通	封筒のみ
A120	[年末詳]6月11日	[書簡]	天田下豊富 小林善九郎	丹後峯山町 墽 田中信吉	葉書	1通	「中舞鶴共楽公園内四ツ角」絵 葉書
A121	[年末詳]6月30日	[封筒]	京都府天田郡拜師 小林善九郎宅	東京麹町区三番町六十八〇 第二 福四万館方 小林善九郎	封筒	1通	封筒のみ
A122	[年末詳]9月18日	[書簡]	天田郡拜師 小林善九郎宅	丹後峰山町吉原七四ノ一 小林善九 郎	葉紙	1通	封筒入
A123	[年末詳]7月28日	[書簡]	京都府天田郡拜師 小林善九郎宅	東京麹町区三番地町五十六 堀留二 郎様方 小林善九郎	葉紙	1通	封筒入、作成月日は消印より、 [年月日不詳]と[年月不詳]13 日の2通の書簡を同封
A124	[年末詳]9月28日	[視察札状]	若木廣	大場義衛	切継紙	1通	朱書「回覧」あり
A125	[年末詳]10月10日	[書簡]	梅林寺三生老		切継紙	1通	三生老は東海鹹禪

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A126	[年末詳]7月27日	[書簡]	天田郡拝師 小林ゆき	東京麹町区三番地町五十六 堀留二郎様方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入、消印は「10.12」、墨紙2枚同封
A127	[年末詳]10月15日	[書簡]	塙見勝亮	京都府峯山町役場内助役 小林善九郎	絵葉書	1通	「鹿児島名所」鹿児島湾の県(桜島)絵葉書
A128	[年末詳]11月3日	[書簡]	新治新左衛門	天田郡下豊富村字拜師 小林善九郎	葉書	1通	
A129	[年末詳]12月9日	[書簡]	妙心寺北方丈三生老		切続紙	1通	三生老は東海鰯禅
A130	[年末詳]3月12日	[書簡]	熊野郡役處 杉本徳四郎	山城国伏見町紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A131	[年末詳]3月17日	[書簡]	長野県守 橋川精一	京都市外伏見御堂前榎原方 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A132	[年末詳]2月20日	[書簡]		京都府伏見町紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A133	[年末詳]6月17日	[書簡]	福井県守 橋川精一	京都府伏見町紀伊郡役所 小林善九郎	切続紙	1通	封筒入
A134	[年月日未詳]	[名刺]	湯浅倉平	京都府外伏見紀伊郡役所 小林善九郎	名刺	1枚	封筒入
A135	[年末詳]1月25日	[書簡]	東京麹町三番町五六 堀留二郎方 小林善九郎	京都府天田郡下豊富村字拜師 四八	墨紙	1通	封筒入
A136	[年月未詳]23日	[書簡]	根本	京都府天田郡下豊富村字拜師 四八 三福雲寺岩本光禪	墨紙	1通	封筒入
A137	[年末詳]5月10日	[書簡]	秋田県守 橋川精一	東京麹町区四番町一番地光洋館	切続紙	1通	封筒入
A138	[年末詳]2月7日	[書簡]	長原太郎	小林賢台	切続紙	1通	
A139	[年末詳]3月8日	[視察礼状]	男爵 上村從衛	天田郡長 大場義衛	切続紙	1通	
A140	[年月日未詳]	[選挙公報]	立憲政友会		印刷物	1通	
A141	[年月日未詳]	[書籍申込書]	京都府下福知山町新町通 馬田富文武堂		葉書	1通	
A142	[年月日未詳]	[封筒]	京都東山健仁僧堂 左邊亭宗淵	[筑後]國久留米梅林寺 僧堂 三生 老大師	封筒	1通	封筒のみ
A143	[年末詳]2月22日	[書簡]	長野縣信濃國 下佐久郡向田町 武盛仲	京都府山城國紀伊郡伏見町郡役所 兒玉利節	切続紙	1通	
A144	[年月日未詳]	[履歴書]	京都北野市営住宅六七号 井尻常吉		墨紙	1通	
A145	[年月日未詳]	[絵葉書]		絵葉書	1通	「京都嵐山絶景」絵葉書	

文書番号	年月日	文書名	差出人	宛先	形態	員数	備考
A146	[年月日未詳]	[絵葉書]			絵葉書	1通	「京都嵐山千鳥ヶ淵」絵葉書
A147	[年月日未詳]	[絵葉書]			絵葉書	1通	「第十三地区区画整理図」絵葉書
A148	[年月日未詳]	[年賀状]			葉書	1通	未使用
A149	大正12年10月6日	[書簡]	天田郡福知山町 高木半兵衛	伏見町御堂前 植原スエ方 小林善九郎	切続紙	1通	
A150	昭和12年8月3日	[封筒]	福知山市愛市推薦同盟	福知山市宇拝師 小林善九郎	封筒	1通	封筒のみ
A151	昭和12年8月6日	[書簡]	福知山市愛市推薦同盟	市内拝師 小林善九郎	切続紙	1通	
A152	昭和12年8月8日	[市会議員当選祝]	福知山市市長 高木半兵衛 福知山市助役 吉岡正雄	小林善九郎	切続紙	1通	
A153	昭和12年8月8日	[市会議員当選祝]	福知山市愛市聯盟	福知山市拝師 小林善九郎	切続紙	1通	
A154	昭和12年8月9日	[市会議員当選祝]	福知山市愛市推薦同盟	福知山市拝師 小林善九郎	切続紙	1通	

小林善九郎関係資料(写真)

番号	撮影年代	撮影場所	写真内容(''Jは裏書等)	撮影者(写真店名等)	写真		台紙		備考
					縦	横	縦	横	
S1	[昭和]	スタジオ	藤野保「(台紙横ペン書)昭和二年九月五日生 七男 藤野保」	長崎市今博多町 山口写真館	8.6	5.7	17	10.6	三つ折台紙、保護紙
S2	[年月日未詳]	屋外	小林善九郎ほか62名集合写真(後列左より6人目) 紀伊郡の学校関連の記念写真力	伏見 竹中尚武軒 新大黒大手筋 北 電話四〇八番	18.7	24.5	11.1	15.3	二つ折台紙
S3	[年月日未詳]	屋外(小林家の庭か)	小林善九郎ほか33名集合写真(前から二列目右から二人目) 法事力		13.6	20	24.1	30.9	台紙
S4	明治41年2月26日	屋外	軍服姿の小林善九郎ほか9名集合写真 「(台紙裏墨書)於四十一年二月二十六日為紀念將校□□□□」後列右端の小林見習士官(ほか9名の名前が記される)	S.Yamada 福知山 山田	13.1	19.8	24.1	31.1	台紙
S5	[年月日未詳]	スタジオ	岐阜産業組合岐阜支会当時のものか 小林善九郎ほか8名集合写真(後列右から二人目) 天田郡書記当時のものか	名古屋市富澤町四丁目 奥村写真館	21.4	27.2	28.4	33.7	台紙、台紙破損
S6	[年月日未詳]	屋外	小林善九郎ほか10名集合写真(後列右端)	S.OtSuki, 福知山 大槻	10.9	15.4	18.5	26	台紙
S7	[年月日未詳]	屋外	小林善九郎ほか34名集合写真(後列右から5人目)	KITAGAWA 福知山 北川写真館	13.9	19.9	22.8	28.6	台紙
S8	[年月日未詳]	屋外	小林善九郎ほか16名集合写真(前列右から3人目) 天田郡書記当時のものか		13.6	20.6	24	31	台紙
S9	昭和5年4月22日	屋外	小林善九郎ほか8名(後列右から2人目) 「(台紙横墨書)昭和五年四月二十二日 前京都府知事浜田恒之助氏 震災地観察記念撮影」	S.SEKIGUCHI MINEYAMA・KADOYA	10.9	15.7	18.6	25.7	二つ折台紙、保護紙
S10	[年月日未詳]	屋外	僧侶3名および女性1名・子供2名集合写真	YAMATO PHOTO STUDIO FUKUCHIYAMA ヤマト写真館 フクチヤマ	9.7	13.8	17.3	24	二つ折台紙、保護紙
S11	[昭和4年11月3日か]	峰山小学校玄関横	小林善九郎ほか35名集合写真(前列左から2人目) 峰山小学校竣工記念行事力	SEKIGUCHI MINEYAMA KADOYA カドヤ峰山 電話二十一番	11.1	16.0	18.4	25.7	二つ折台紙か、表紙はずれ
S12	[昭和]	屋外(「小西川」看板が写る)	小林善九郎ほか8名集合写真(左から4人目) 小西川改修関係力	田村写真館 京都府峯山町 A.TAMURA	13.2	19.1	23.9	30.9	台紙
S13	[年月日未詳]	スタジオ	小林善九郎・悠紀夫妻	Photograph ARTISTIC 濑古	17.4	10.3	16	11.9	台紙

番号	撮影年代	撮影場所	写真内容(「」は裏書等)	撮影者(写真店名等)	写真 縦	写真 横	台紙 縦	台紙 横	備考
S14	[年月日未詳]	スタジオ	小林悠紀・富美・治野	S.Yamada 福知山 山田 電話七 十三番	10.3	7.2	20	12.8	台紙
S15	[年月日未詳]	屋外	小林定右衛門 カ	R.Mori 京都市繩手三条下ル壹丁 目 森水明舎	19.8	13.8	14.3	9.9	台紙
S16	[年月日未詳]	伏見慈善会立幼稚園	伏見慈善会立幼稚園卒業式記念写真 「(台紙墨 書)伏見慈善会立幼稚園 第一回卒業式紀念」	M.KAMEI,FUSHIMI,JAPAN.カメイ	11.6	15.6	18.6	25.9	二つ折台紙 折れが目立ち保存 状態が悪い
S17	大正14年4月 12日	荒川堤	花見風景 「(裏面青鉛筆書)大正十四年四月十二 日觀桜会記念 於荒川堤」		10.8	14.4			
S18	[年月日未詳]	屋外	小林善九郎ほか27名集合写真(前列右端) 軍服姿の小林善九郎、50才代カ		11	14.9			
S19	昭和13年4月 28日	芦ノ湖	小林善九郎ほか6名集合写真(右端) 「(裏面墨書) 昭和十三年四月二十八日 元箱根芦ノ湖岸ニ於テ 記念撮影」	K.T.HAKONE 田戸	9.2	13.9			
S20	[年月日未詳]	伊勢神宮カ	小林善九郎ほか4名集合写真(右端)		10.7	14.8			
S21	昭和17年10月 28日	兼六園	小林善九郎ほか9名集合写真(前列右から2人目) 「(裏面ペン書)兼六公園記念(於昭和十七年十月 二十八日)」		11.1	15.5			
S22	[昭和13年度]	福知山警察署前	集合写真(前から2列目中央付近)		11	15.7			
S23	[年月日未詳]	屋外(福知山市 役所カ)	小林善九郎ほか34名(後から2列目左より4人目) 「(台紙裏鉛筆書)福知山市選師」 市議会当選者集 合写真		14	19.7	24.5	33.3	台紙
S24	[年月日未詳]	屋外	男性1名	R.Mori 京都市繩手三条下ル壹丁 目 森水明舎	14.4	9.9	19.8	13.8	台紙
S25	[年月日未詳]	屋外	建物		11.1	15.6			折れあり
S26	[年月日未詳]	屋外	小林善九郎ほか4名集合写真(後列右端) 「(裏面 墨書)大津大会記念」 小林善九郎ほか4名の名前 が記される	K.OGAWA 小河 大津三井寺下	13	9	23.4	15.4	二つ折台紙
S27	[年月日未詳]	スタジオ	人物1名			21.8	14.3	33.6	台紙
S28	[年月日未詳]	スタジオ	軍服姿人物1名	S.Yamada 福知山二山堂 電話七 十三番	14.3	6.5	19.1	10.2	台紙

小林善九郎関係資料(書籍)

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B1	明治30年9月13日	新編生理教科書 全	坪井次郎	金港堂書籍株式会社	書籍	1冊	「小林蔵書」朱印あり	
B2	明治31年12月26日	新編倫理教科書 総説	井上哲次郎・高山林次郎	金港堂書籍株式会社	訂正再版	書籍	1冊	
B3	明治31年9月5日	訂正増補小化学書 下巻	レムゼン著/久原躬弦・織田顯次郎	合資会社敬業社	再訂増補十一版	書籍	1冊	「小林」朱印あり
B4	明治43年8月10日	町村自治講演会筆記	天田郡町村自治研究会	明治42年11月25～27日愛知県立農村学校長山崎延吉による講習会の記録	書籍	1冊		
B5	明治44年10月15日	井上内務省参事官講演 自治訓練の方法	内務省地方局		書籍	1冊		
B6	明治45年2月25日	岐阜連隊区将校団記事 第二十二号	岐阜連隊区将校団	表紙に「将校ノ外閲覧ヲ禁ス」印刷あり	書籍	1冊		
B7	大正元年8月30日	偕行社記事 特別号	東京偕行社	明治天皇崩御に関する特別号	書籍	1冊		
B8	大正2年3月5日	産業組合論叢	井上亀五郎	井上亀五郎は長野県技師	書籍	1冊		
B9	大正2年7月20日	農家の経済	山崎延吉	宮尾活版所	書籍	1冊	「小林善九郎」墨書きあり	
B10	大正4年3月31日	都市改良参考資料	内務省地方局		書籍	1冊		
B11	大正5年5月28日	農家経済講習会筆記	京都府加佐郡農会	大正5年2月9～13日の京都府農会技師大島国三郎による農家経済講習会の記録	書籍	1冊		
B12	大正7年2月	町村財務監査心得(草案)			書籍	1冊		
B13	[大正7年2月]	町村の自治		大正7年2月の郡書記講習会における清水法学者の講演	書籍	1冊		
B14	大正7年7月30日	内務省参事官潮恵之輔講述 地方財務一斑	内務省地方局	大正7年1月の第11回地方改良講習会講演	書籍	1冊		
B15	大正7年12月1日	簡易生命保険之葉	為替金局		書籍	1冊		

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B16	大正8年3月5日	交戦諸国ノ陸軍ニ就テ(第四版)	偕行社	偕行社記事大正8年3月 号記事に代え発行	書籍	1冊		
B17	大正8年4月	勤勉貯蓄奨励資料 一	大阪府内務部地 方課	大阪府内務地方		書籍	1冊	
B18	大正8年6月25日	第一期必行事項第一回成績概要	大阪府内務地方 課			書籍	1冊	
B19	大正9年1月25日	文学博士 服部宇之吉君述 立國の大義		内務省地方局		書籍	1冊	表紙に「京都府 小林天田郡書 記」貼紙
B20	大正9年2月12日	内務書記官 田澤義鋪述 青年団 体の組織經營と指導		内務省地方局	大正8年地方改良講習会 講演	書籍	1冊	表紙に「京都府 小林天田郡書 記」貼紙
B21	大正9年2月17日	農商務省農務局長 道家齊君述 戦後の農村開発		内務省地方局	大正8年地方改良講習会 講演	書籍	1冊	表紙に「京都府 小林天田郡書 記」貼紙
B22	大正9年5月3日	投票の効力に関する行政実例及裁判例	京都府庶務課			書籍	1冊	
B23	大正9年10月5日	歩兵操典草案に関する尾野本部長 口演要旨 歩兵操典草案編纂理由 書 軍隊教育例会成案ニ関スル尾 野教育総監部本部長並各兵監講話 摘要	偕行社	偕行社記事第五百五十四号付錄	書籍	1冊		
B24	大正9年10月25日	自治民育諸会概観	京都府庶務課			書籍	1冊	
B25	大正11年1月5日	大正十年特別大演習概況 大正十 年特殊演習概況	偕行社	偕行社記事第五百六十九号付錄	書籍	1冊		
B26	大正12年1月5日	兵庫支会報 第百十二号	産業組合中央兵庫支会内一橋寅 市	産業組合中央会兵庫支会		書籍	1冊	「小林」朱印あり
B27	大正12年2月5日	兵庫支会報 第百十三号	産業組合中央兵庫支会内行方甚 次郎	産業組合中央会兵庫支会		書籍	1冊	「小林」朱印あり
B28	大正13年5月25日	東京都市計画並事業索引	遠藤市次	遠藤市次		書籍	1冊	
B29	大正13年9月	紐育及其附近の地方計画	復興局長官房計画 課	復興局長調査彙報第八 号	書籍	1冊		
B30	大正15年4月1日 るまで	町村廃置事務参考豊栄村の置かれ 京都府竹野郡豊栄村役場	豊栄村長職務管掌和田 榮一(元天田郡書記)が執筆	書籍	1冊			

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B31	昭和2年3月20日	文学博士 笠川種郎述 江戸文化概観		東京市教育局	市民講座第一輯	書籍	1冊	
B32	昭和2年3月31日	内務省嘱託柴田常惠・東京府嘱託稻村坦元共述 多摩御陵及附近の史蹟		東京市教育局	市民講座第二輯	書籍	1冊	
B33	[昭和2年7月]	東京帝國大学講師文学士、小野秀雄述 新聞学		東京市教育局限	市民講座第三輯	書籍	1冊	
B34	昭和2年11月12日	濱町誌		東京市教育局限	第十二地区土地区画整理完成記念会	第十二地区土地区画整理完成記念	1冊	
B35	昭和2年12月	昭和二年度創刊号 芳門会会報 No.1	芳門会編纂室	東京市民講座	東京市民講座	書籍	1冊	
B36	昭和4年4月30日	昭和三年度号 芳門会会報 No.2	芳門会事務所	東京市民講座	表紙に「日本將校外ノ閲覽ヲ禁ス」印刷あり	書籍	1冊	
B37	昭和4年12月28日	昭和五年一月 将校団報 第三十号		福知山連隊区将校団	表紙に「日本將校外ノ閲覽ヲ禁ス」印刷あり	書籍	1冊	
B38	昭和6年9月15日	昭和六年九月 将校団報 第四十四号		福知山連隊区将校団	国防号其一	書籍	1冊	
B39	昭和8年11月25日	天田教育 第四十四号(思想善導号)		天田郡教育部会	小林の「故高橋源治君夫婦の墓碑に参拝して」を所収	書籍	1冊	「小林善九郎殿」ペソ書あり
B40	[昭和9年3月]	保証責任下豊富信用販売購買利用組合定款	下豊富信用販売購買利用組合	昭和9年3月変更改定	昭和9年3月変更改定	書籍	1冊	
B41	昭和10年6月10日	昭和十年五月 将校団報 第六十号		福知山連隊区将校団	表紙に「部外秘日本將校外閲讀ヲ禁ス」印刷あり	書籍	1冊	
B42	昭和10年8月1日	産業組合 第三百五十八号		産業組合中央会		書籍	1冊	
B43	昭和10年12月25日	産業中央会京都支会会報 第四十号		産業組合中央会京都支会		書籍	1冊	
B44	昭和12年10月1日	産業組合 第三百八十四号		産業組合中央会		書籍	1冊	
B45	昭和12年12月2日	国民生活の安定と生活資源の確保	内閣 内務省 文部省	国民精神総動員資料第八輯	国民精神総動員資料第八輯	書籍	1冊	
B46	昭和15年7月27日	七・七禁止令ニ依ル製造・販売禁止 物品總覽	高橋成弘社	戦時経済関係法規別冊 第二輯	戦時経済関係法規別冊 第二輯	書籍	1冊	
B47	昭和17年2月7日	令規時報 第九千八百六十二号 経済警察関係法令集(京都府)追録 第九号	京都府経済保安課	帝国地方行政学会	書籍	1冊		

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B48	[年月日未詳]	国勢調査員必携	内閣統計局	昭和5年の第2回国勢調査のもの	書籍	1冊		
B49	[年月日未詳]	京都府処務細則		大正九年九月十四日府訓第十六号	書籍	1冊		
B50	[年月日未詳]	愛宕郡役所処務細則			書籍	1冊		
B51	[年月日未詳]	葛野郡会誌	京都府葛野郡役所	大正10年郡役所廃止時に作成と本文中にあり	書籍	1冊		
B52	[年月日未詳]	実用庶務提要 三 公文例			書籍	1冊		
B53	明治41年2月11日	鳥帽子折	訂正者 観世清廉	檜常之助	書籍	1冊		
B54	大正4年1月	歴史写真 大正四年一月号			書籍	1冊	破損著しい	
B55	大正4年11月5日	紀伊郡御陵墓誌		京都府紀伊郡役所	書籍	1冊		
B56	大正10年10月1日	斯民 第十六編第十号		中央報徳会	書籍	1冊		
B57	大正11年4月22日	岐阜県の産業案内 附名所旧蹟		岐阜県出品協会	書籍	1冊		
B58	大正11年6月18日	成田山五大事業大正十一年報		成田山新勝寺	書籍	1冊		
B59	大正11年10月1日	大成 第十卷第十号		大成協会	書籍	1冊		
B60	大正12年1月1日	宇治茶のかほり	石井吉次	京都府茶業組合聯合會議所	書籍	1冊		
B61	大正12年1月1日	大成 第十一卷第一号		大成協会	書籍	1冊		
B62	大正12年1月1日	向上 第十七卷第一号		修養団本部	新年号	書籍	1冊	
B63	大正12年1月5日	心理学講話		偕行社	偕行社記事第五百八十 一号付録	書籍	1冊	「小林」朱印あり
B64	大正12年4月1日	向上 第十七卷第四号		修養団本部	書籍	1冊		
B65	大正12年4月1日	斯民 第十八編第四号		中央報徳会	書籍	1冊		
B66	大正12年5月1日	大成 第十一卷第五号		大成協会	書籍	1冊		
B67	大正12年10月1日	大成 第十一卷第十号		大成協会	書籍	1冊		
B68	大正13年4月26日	大成 第十二卷第四号		大成協会	書籍	1冊		
B69	大正14年4月1日	都市研究 第一卷第二号		兵庫県都市研究会	復興局整地部小林善九郎「土地区画整理組合に就て」	書籍	1冊	
B70	大正14年5月1日	東亜の光 第二十卷第五号	東亜協会	二十周年記念増大号	書籍	1冊		

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B71	大正14年6月1日	東亜の光 第二十巻第六号		東亜協会		書籍	1冊	
B72	大正14年11月1日	斯民 第二十編第十一号		中央報徳会		書籍	1冊	
B73	大正14年12月1日	斯民 第二十編第十二号		中央報徳会		書籍	1冊	
B74	大正15年3月10日	連珠必勝法【恒星之巻】		連珠宣伝本部		書籍	1冊	
B75	大正15年4月25日	法律辞解	池田正之輔	日本大学出版部		書籍	1冊	
B76	大正15年6月15日	財団法人理化学研究所案内		財団法人理化学研究所		書籍	1冊	
B77	大正15年12月15日	歴史と趣味 第三編第十二号	吉川洋	国民文化研究所		書籍	1冊	
B78	大正15年12月20日	理研ヴァイタミンA(ビオステリン) 第四版		財団法人理化学研究所		書籍	1冊	
B79	昭和2年2月	歴史写真 第百六十三号		[歴史写真会]	表表紙・先帝御尊影等の み	書籍	1冊	
B80	昭和2年2月14日	昭和一新論	徳富猪一郎	民友社	四版	書籍	1冊	
B81	昭和2年2月28日	農業上より見たるネオトンの効果		財団法人理化学研究所		書籍	2冊	
B82	昭和2年9月1日	歴史写真 第百七十一号		歴史写真会		書籍	1冊	
B83	昭和3年1月1日	歴史写真 第百七十五号		歴史写真会		書籍	1冊	
B84	昭和3年2月11日	乃木式 第百五十七号		相会		書籍	1冊	
B85	昭和4年3月1日	経済雑誌解剖 第六巻第三号		解剖社		書籍	1冊	
B86	昭和4年4月3日	一徳 第百四十三号		社団法人一徳会		書籍	1冊	
B87	昭和5年2月19日	青年問題 第一巻	鈴木千代吉	西ヶ原叢書刊行会	濱水論叢第七輯	書籍	1冊	
B88	昭和6年4月20日	保険の友 第五十一号		保険の友社		書籍	1冊	
B89	昭和6年10月5日	愛國 第二号		愛國婦人会京都府支部	愛國婦人会京都府支部 会報	書籍	1冊	
B90	昭和7年9月1日	野間清治短説集	野間清治	大日本雄弁会講談社	キング第八巻第九号付録	書籍	1冊	
B91	昭和8年9月1日	明倫 第一巻第七号		明倫会出版部		書籍	1冊	
B92	昭和9年3月5日	富民協会報 第六巻第三号		財団法人富民協会		書籍	1冊	
B93	昭和9年7月5日	富民協会報 第六巻第八号		財団法人富民協会		書籍	1冊	
B94	昭和9年9月1日	産業組合 第三百四十七号		産業組合中央会		書籍	1冊	

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B95	昭和9年10月5日	富民協会報 第六巻第十一号		財団法人富民協会		書籍	1冊	
B96	昭和10年6月5日	富民協会報 第七巻第七号		財団法人富民協会		書籍	1冊	
B97	昭和10年6月15日	夏の数学 第一学年		研究社	夏季休暇数学練習帳	書籍	1冊	「小林利定」鉛筆書あり
B98	昭和11年1月1日	名言名訓集	武者小路実篤	大日本雄弁会講談社	キング第十二巻第一号付 録	書籍	1冊	
B99	昭和12年7月15日	市町村雑誌 第五百二十三号		市町村雑誌社		書籍	1冊	
B100	昭和12年11月10日	昭和十二年市勢要覽		宇治山田市役所		書籍	1冊	
B101	昭和13年2月5日	農民雑誌富民 第十巻第二号		財団法人富民協会		書籍	1冊	
B102	昭和13年4月5日	盟の響 第七号		天田郡産業組合青年連盟		書籍	1冊	
B103	昭和13年7月5日	農民雑誌富民 第十巻第七号		財団法人富民協会		書籍	1冊	
B104	昭和15年2月15日	文学博士平泉澄述 菊池氏伝家の精神		菊池氏勤皇顕彰会	昭和14年9月23日菊池氏勤皇顕彰会講演会輯録	書籍	1冊	
B105	昭和17年6月5日	静岡市都市計画復興事業概況		静岡市	昭和15年静岡市大火の復興事業	書籍	1冊	
B106	昭和19年2月11日	必勝国民読本	徳富猪一郎	毎日新聞社		書籍	1冊	
B107	[年月日未詳]	国際連盟の栄		社団法人国際連盟協会		書籍	1冊	
B108	昭和27年4月5日	明日では遅すぎる	A・マーシャル、大谷義訖	株式会社ダヴィッド社	20刷	書籍	1冊	
B109	[年月日未詳]	校正日本外史 賴氏蔵板	賴久太郎			書籍	1冊	表紙後補
B110	大正10年1月10日	改定新体女子文法 全	春日政治	東京修文館・大阪修文館	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「年西組 小林ふみ」墨書き
B111	大正10年1月10日	改定新体女子文法別表 全		東京修文館・大阪修文館	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「年西組 小林富美」墨書き
B112	大正12年12月15日	女子新国文 卷二	芳賀矢一	合資会社富山房	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「年西組 小林フミ」シール
B113	大正13年9月2日	最新博物通論	理学博士 田原正人	至文堂		書籍	1冊	裏表紙に「四年西組 小林富美」ペッサ書

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
B114	大正14年1月18日	現代女子作文 卷二	金子彦二郎	光風館書店		書籍	1冊	裏表紙に「二年 西組 小林富 美」ペン書
B115	大正14年1月18日	現代女子作文 卷三	金子彦二郎	光風館書店		書籍	1冊	
B116	大正14年1月25日	女学校用最新代数	理学博士 中川銓 吉	合資会社富山房	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「二年 西組 小林富 美」墨書
B117	大正14年3月18日	記憶縱横	森咲二	螢雪学生同志会		書籍	1冊	
B118	大正15年5月15日	最新模範表解西洋史 上巻	中等教育研究会	文陽堂書店		書籍	1冊	
B119	昭和2年1月15日	女学校用新代数(続編)	理学博士 中川銓 吉	合資会社富山房	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「三年 西組 小林富 美」墨書
B120	昭和4年3月20日	訂修女子国文新選 七	吉澤義則	星野書店	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「四年 西組 小林富 美」墨書
B121	[昭和7年]	新制幾何三角法精解 昭和七年度 版 一・二・三年用	園正造	学生の友社		書籍	1冊	裏表紙に「四年 東小林」シール
B122	昭和12年2月13日	新編応用理科	石川日出鶴丸・石 野又吉・大幸勇吉・ 郡場博・湯浅八郎	合資会社富山房	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙など欠
B123	昭和12年12月11日	新修漢文 新制版	筒野道明	株式会社明治書院	訂正再版	書籍	1冊	裏表紙に「京都 府立福知山中 学校 小林利 定」ペン書

小林善九郎関係資料(地図)

文書番号	発行年月日	文書名	著編者	発行元	内容	形態	員数	備考
T1	大正11年7月20日	実地踏測京都市街全図		和楽路屋	縮尺1/15,000、裏に京都の名所案内。	印刷物	1舗	
T2	昭和5年10月1日	新式鉄道旅行地図	忠誠堂	忠誠堂	樺太・北海道から満州・朝鮮・台湾までの全国路線図と沿線名勝古跡案内	印刷物	1舗	
T3	大正8年6月30日	京都及大阪		大日本帝国陸地測量部	二十万分一帝国図第二二行第二五段	印刷物	1舗	「歩兵第三連隊」朱印あり
T4	昭和5年7月5日	日本交通分県地図「其三十九」神奈川県		大阪毎日新聞	大阪毎日新聞16938号付録	印刷物	1舗	
T5	昭和13年6月25日	最新支那戦局全図	大阪毎日新聞	大阪毎日新聞	大阪毎日新聞19826号付録	印刷物	1舗	
T6	[年月日未詳]	朝鮮案内			裏に縮尺1/250,000の朝鮮半島地図	印刷物	1舗	
T7	大正4年5月5日	京都府全図	京都府土木工手福 田毅太郎	京都府	縮尺1/180,000	印刷物	1舗	
T8	[年月日未詳]	曾屋村			縮尺1/20,000	印刷物	1舗	
T9	大正13年5月15日	復興局公認東京都市計画地図		遠藤市次	縮尺1/20,000	印刷物	1舗	

小林善九郎関係資料(覚)

文書番号	年月日	文書名	作成者	内容	形態	員数	備考
O1	[大正8年7月]	第十三回地方改良講習会筆記	[小林善九郎]	7/11～20の講習内容のメモ	ノート	1冊	
O2	[大正8年7月]	其二	[小林善九郎]	第十三回地方改良講習会 7/21～23の講習内容のメモ	ノート	1冊	
O3	[年月日未詳]	I 簡易電気学一班 伊知地技師 II 養蚕一班 山崎技師	小林善九郎	講習内容のメモ	ノート	1冊	
O4	[年月日未詳]	備忘録			ノート	1冊	
O5	[年月日未詳]	大幅帳			横帳	1冊	
O6	[年月日未詳]	災害救助ニ就テ 木村警視 の写し		ノート	1級	表紙なし	

小林善九郎関係資料(そのほか)

文書番号	年月日	文書名	作成者	内容	形態	員数	備考
Z1	[昭和5年]	第三回事業報告書	日本火災保険株式会社	自昭和4年1月1日至昭和4年12月31日	印刷物	1冊	
Z2	昭和5年3月	第三十八回営業報告書	日本火災保険株式会社	自昭和4年1月1日至同年12月31日	印刷物	1部	
Z3	昭和5年12月20日	火災保険代理店契約証書	日本火災保険株式会社 取締役社長 川崎 肇(印) 小林善九郎(印)	堅帳	1冊		
Z4	昭和19年11月1日	戦争、地震保険取扱手数料並ニ代理店契約書ニ關スレ件	日本火災海上保険株式会社京都支店長 大迫國盛(印)	印刷物	1通		
Z5	[年月日未詳]	戦争並ニ地震保険代理店取扱手数料支給規程		印刷物	1通		
Z6	[年月日未詳]	保険契約復活申込書	書き込みなし	印刷物	2通		
Z7	[年月日未詳]	[簿記指導・例題]		印刷物	1級	謄写版印刷	
Z8	[年月日未詳]	[電気応用方法]		印刷物	1冊	第3章のみ	
Z9	[年月日未詳]	[幟旗]	小林善九郎が市議員に立候補した時に使用したもの	1点			

都市研究第一卷第三号目次

口 繪 (新緑の明石公園)

◆ 兵庫県都市研究会の使命 都市計画官房 篠原英太郎 (一)

論 論

◆ 都市に隣接する地方の計画 内務事務官 飯沼一省 (四) 業界高教工学校 田逸平 學 (一六) 都市計画委員会委員会 河合浩蔵 (二四)

資 料

◆ 満洲における都市計画と土地区域整理 都市計画地方工學士 小野榮作 (三〇) 実業具會技術工學士 小野榮作 (三〇) 復興局整地部 小林善九郎 (五〇)

◆ 東京都市計画の進行とバラック移転状況 延岡局整地部 小林善九郎 (五〇)

雑 錄

◆ 都市計画事業に就て 秋守常太郎 (五七) 北但の震災に就て (六五) 會告 (六八)

◆ 市民欄

◆ 都市計画相談所開設 (五五)

◆ 神戸市の道路網は何日決まるか (五四)

◆ 都市計画巡回展覽會開催 (五四)

◆ 都市計画の進行とバラック移転状況 延岡局整地部 小林善九郎 (五〇)

雑報

◆ 都市計画事業に就て 秋守常太郎 (五七) 北但の震災に就て (六五) 會告 (六八)

補助線 部課員となり移轉促進上多大の効果を挙めつゝある。

五二

(ホ)派出所の設置 本地區箇所に臨時派出所を設け數名の係員を派し實地の指導をなし開係官公衙會社等との打合巡給を圖る等の移轉の質行上些の遺憾なきことを期し尚電燈、電話等の移轉に關しては關係官公衙及會社よりも係員を常派し、ラックの移轉に順應して應急の處置を爲す等大に便宜を圖りつゝある。(ハ)街路工事 本地區内に於ける街路工事の重なるものは(ト)關係者の意擧 本地區内に於ける移轉關係者者の意擧を察するに既報の如く移轉命令は關係者の已に預期する處なるを以て之が發令に對しては何等の異議を述べるものなく寄々協議會を開きて當局の説明を求むる等移轉計畫對しては何等の異議を述べるものなく寄々協議會等に依りて尙一層の誤解を爲し移轉打合懇談會等に依りて尙一層の誤解を爲し或る種の運動又は騒動を排除して機縦的に移轉を完了し以て速かに區劃整理の効果に沿る事例である。

路川附近一帶は神田昌平會に於ては最近河渠懇談會を組織し有力者相集りて移轉に關する當面の問題の解決に努力し移轉促進上多大の理解に勉めつゝありたるが當所主催に係る移轉打合懇談會等に依りて尙一層の誤解を爲し或る種の運動又は騒動を排除して機縦的に移轉を完了し以て速かに區劃整理の効果に沿る事例である。

五三

都市計畫法第五條 都市計畫事業は勅令の定むる所に依り行政廳に非ざる者を主務大臣特別の必要ありと認めることは勅令の定むる所に依り行政廳に非ざる者をし其願に依り都市計畫事業の一部を執行せしむることを得

小林善九郎関係文書調査報告書

執筆・編集 植村善博・奥田裕樹

発行 平成二六年三月三一日

京丹後市教育委員会

〒六二九一二五〇一

京都府京丹後市大宮町口大野二三六

TEL ○七七二一六九一〇六四〇

FAX ○七七二一六八一九〇六一

印刷 有限会社三丹印刷

表紙

右上 明治41年 福知山歩兵第20連隊時代 (S4)
左上 大正12～13年 紀井郡役所時代 (S8)
右下 昭和3～4年 峰山町役場助役時代 (S12)
左下 昭和17年 福知山市会議員時代 (S21)

京丹後市峰山町市街地 (平成20年撮影)

裏表紙



峰山小学校

本

町

通

丹後震災記念館

小西川